

姫路市のまちづくりに関するアンケート
報 告 書

令和 5 年 3 月

姫 路 市

目 次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	
(2) 調査内容	
(3) 回答者の属性 (18 歳以上の市民)	
2. 調査結果の要旨	4
(1) 居住地域の現状	
(2) 今後のまちづくり	
3. 調査結果【18 歳以上の市民】	7
(1) 地域の住みやすさ [個別評価]	
(2) 地域の住みやすさ [総合評価]	
(3) 地域の特性・誇り	
(4) 土地利用の問題点	
(5) 主な交通手段	
(6) 住み替えの意向	
(7) 重点的な取組	
(8) 姫路駅周辺のまちづくり	
(9) 地域の拠点づくり	
(10) 道路・公園	
(11) 景観	
(12) 環境・エネルギー	
(13) 防災	
(14) 都市と農の共生	

1. 調査概要

(1) 調査目的

- ・本調査は、市民の住みやすさに対する満足度や問題意識の把握、今後のまちづくりの各分野に関する意向を把握し、都市計画マスタープラン改定の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

(2) 調査内容

ア 調査対象

- ・18歳以上の市民3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）

イ 調査方法

- ・調査票の郵送配布、郵送回収（電子申請を利用したWebアンケートを併用）
- ・回収率の向上を図るために督促はがきを送付

ウ 調査期間

- ・令和4年12月21日（水）から令和5年1月31日（火）まで

エ 質問内容

- ・回答者の属性（問1・2）
- ・居住地域の現状について（問3～7）
- ・今後のまちづくりについて（問8～16）
- ・まちづくりに関する自由意見（問17）

オ 回収状況

(18歳以上の市民)

- ・配布数3,000に対し有効回収数は1,297（郵送回収993、電子申請による回収304）であり、有効回収率は43.2%です。

図表 1.1 地域別にみた回収状況

	中部第一	中部第二	北部	東部	灘	飾磨	広畑	網干	西部	家島	安富	夢前	香寺	不詳	合計
配布数(票)	287	406	255	267	310	227	226	275	219	153	114	147	114	—	3,000
有効回収数(票)	125	163	105	96	85	127	117	113	109	38	45	75	73	26	1,297
有効回収率(%)	43.6	40.1	44.3	43.8	41.0	37.4	42.5	38.2	49.8	47.7	33.3	51.0	39.5	—	43.2

注：地域ごとの人口割合で3,000票を按分すると極端に配布数の少ない地域が生じるため、人口の少ない地域にも一定数の調査票を配布している。

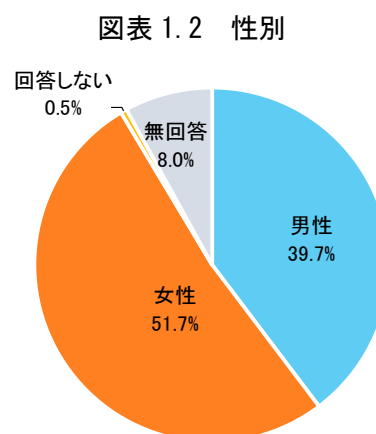
カ 集計結果

- ・集計結果のグラフや表については、回答者数に対する割合(%)を示していますが、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・集計結果のグラフや表の見出し及び本文中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- ・集計結果のグラフ中の「前回」の数値は、平成24年度に実施した「姫路市のまちづくりに関するアンケート」の結果を比較のために示しています。
- ・記号「n」は回答者数を表しています。
- ・質問ごとに指定する選択数以上の回答があった場合など、無効となる回答については、無回答に含めて集計しています。

(3) 回答者の属性 (18歳以上の市民)

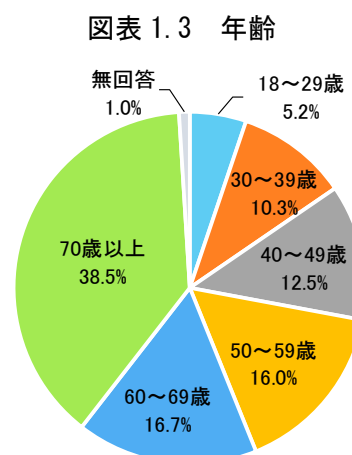
ア 性別

- ・回答者の性別は、「男性」が39.7%、「女性」が51.7%、「回答しない」が0.5%、無回答が8.0%となっています。



イ 年齢

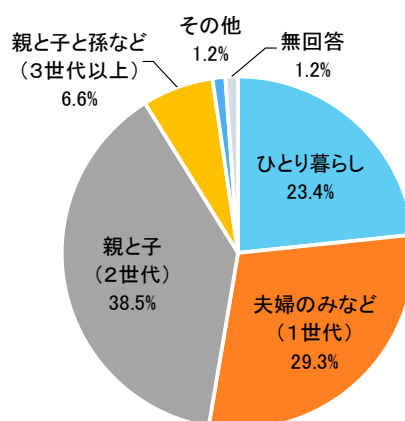
- ・回答者の年齢は、「70歳以上」が38.5%と最も高く、次いで「60代」が16.7%となっています。
- ・実際の人口分布(令和2年国勢調査:20代9.6%、30代10.8%、40代14.6%、50代13.1%、60代11.5%、70歳以上20.8%)と比較して50歳以上の割合が高く、50歳未満の割合が低くなっていますが、特定の世代に過度の偏りが無く分布しています。



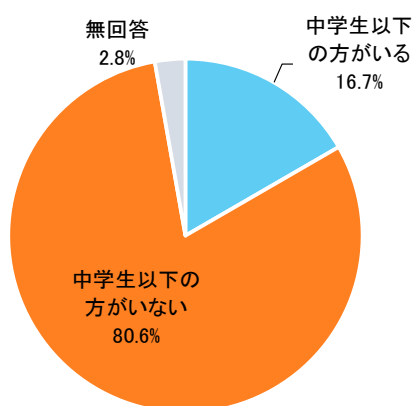
ウ 家族構成

- ・回答者の家族構成は、「親と子(2世代)」が38.5%と最も高く、次いで「夫婦のみなど(1世代)」が29.3%、「ひとり暮らし」が23.4%となっています。
- ・家族の中に「中学生以下の方がいる」は16.7%、「75歳以上の方がいる」は25.8%となっています。

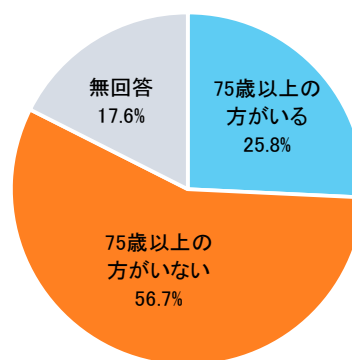
図表 1.4 家族構成



図表 1.5 中学生以下の方の有無



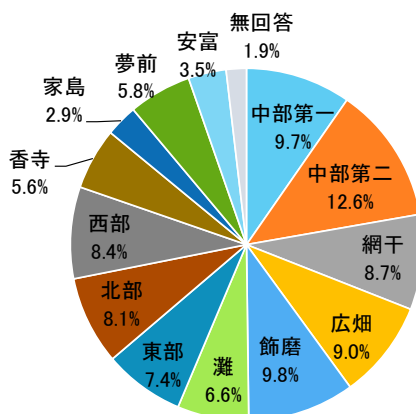
図表 1.6 75歳以上の方の有無



エ 居住地域

- ・回答者の居住地を地域別にみると、「中部第二」が12.6%と最も高く、次いで「飾磨」が9.8%、「中部第一」が9.7%、「広畑」が9.0%となっています。
- ・地域ごとに一定数以上の調査票を配布した結果、香寺・家島・夢前・安富地域等では、実際の人口分布(令和2年国勢調査:中部第一地域9.6%、中部第二地域17.0%、網干地域9.6%、広畑地域10.0%、飾磨地域12.0%、灘地域7.8%、東部地域7.9%、北部地域10.4%、西部地域7.4%、香寺地域3.4%、家島地域0.8%、夢前地域3.2%、安富地域0.9%)と比べて回答割合が高くなっています。

図表 1.7 居住地域



2. 調査結果の要旨

(1) 居住地域の現状

ア 住みやすさの満足度

- ・全体の7割以上は地域の住みやすさについて総合的に満足しています。
- ・快適性、利便性、安全・安心の観点から住みやすさに対する満足度をみると、快適性や利便性に関する項目については総じて満足度が高い一方、「高齢者や障害者が安心して通れる歩道等」(満足度の評価点-0.45点)、「自転車での通行のしやすさ」(同-0.08点)など、安全・安心に対する満足度が低くなっています。
- ・家島・夢前・安富地域等の郊外部では、安全・安心に加えて、公共交通の便利さや買物の便利さなど、利便性に対する満足度が低くなっています。

イ 地域の特性・誇り

- ・「海、山、川など豊かな自然」(北部・西部・家島・安富・夢前地域)、「良好な住環境」(中部第二・東部・香寺地域)、「秋祭りなどの伝統行事」(網干・広畑・飾磨・灘地域)、「お城、社寺、歴史的建物や町並み」(中部第一地域)等が地域の特性・誇りとなっています。

ウ 土地利用の問題点

- ・人口減少と少子高齢化の進行等に伴う放置空き家の増加(26.1%)が全市的な問題となっていることに加え、家島・安富・夢前地域等の郊外部においては、日常生活に必要な施設の不足や、農地や森林の管理水準の低下が問題となっています。
- ・臨海部等では、宅地化による農地の減少が土地利用の問題点として指摘されています。

エ 主な交通手段

- ・全体の7割以上が自家用車(自分が運転または家族等が運転)と回答しており、自家用車が日常生活に欠かせない交通手段となっています。
- ・家島地域では原付・バイクや旅客船が主な交通手段となっています。
- ・中心部や臨海部では自転車の利用割合が高く、3割以上(中部第一地域では4割以上)を占めています。

オ 住み替えの意向

- ・高齢の世代ほど「住み替えは考えていない(このまま住み続けたい)」が高くなる傾向にあるものの、70歳以上の約2割が住み替えを考えて(希望して)います。
- ・北部・家島地域等の郊外部等では、住み替えを考えて(希望して)いる人の割合が市全体を上回っています。
- ・住み替えの理由としては、「日常生活(買い物、通院など)が不便」が最も高く、70歳以上の4割以上を占めています。

(2) 今後のまちづくり

ア 重点的な取組

- ・今後のまちづくりについては、「買い物、通院等の日常生活の利便性の向上」(58.5%)、「自然災害に対する安全性の向上」(40.4%)、「公共交通の充実(バリアフリー化を含む)」(38.2%)が重視されています。
- ・特に、「買い物、通院等の日常生活の利便性の向上」は全体の約6割を占めており、すべての世代・地域において最も高くなっています。

イ 姫路駅周辺のまちづくり

- ・姫路駅周辺の空間づくりでは、「地域性」(5.3%)よりも「利便性」(34.0%)、「安全性」(30.2%)、「快適性」(26.1%)を重視される人が多く、「利便性」が最も高くなっています。
- ・若い世代や中学生の方がいる世帯は、「利便性」や「快適性」を重視されています。

ウ 地域の拠点づくり

- ・地域の拠点(鉄道駅や支所・地域事務所の周辺)に必要な施設として、「日常生活に必要な店舗・サービス施設」(48.0%)、「病院や診療所」(29.0%)、「公園・広場等のオープンスペース」(20.9%)が求められています。
- ・特に、「日常生活に必要な店舗・サービス施設」は全体の約5割を占めており、すべての地域において最も高くなっています。

エ 道路・公園

(道路)

- ・道路に期待する役割として、「渋滞をなくし、人やモノの移動時間を短縮すること」(48.5%)、「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」(28.4%)、「健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること」(28.4%)が求められています。
- ・特に、都市計画区域内では「渋滞をなくし、人やモノの移動時間を短縮すること」が最も高く、家島・夢前・安富地域では「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」が最も高くなっています。「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」は臨海部においても比較的高く3割前後を占めています。

(公園)

- ・公園に期待する役割として、「スポーツや健康増進、外遊びの機会等の活動の場を提供すること」(49.4%)、「震災時の避難場所の提供や火災の延焼防止など都市の防災力を高めること」(46.8%)、「カフェ等を設置して、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること」(21.1%)が求められています。

- ・特に、50歳未満の世代では「スポーツや健康増進、外遊びの機会等の活動の場を提供すること」が6割以上(中学生の方がいる世帯では7割以上)を占めています。

オ 景観

- ・大切にしたい景観は、「城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観」(中部第一・中部第二・飾磨・東部地域など)、「山並みや海浜・島しょ、河川等の自然景観」(広畑・灘・西部・家島・夢前・安富地域)、「ゆとりやうるおいのある住宅地の景観」(網干・北部・香寺地域)となっています。

カ 環境・エネルギー

- ・脱炭素社会に向けたまちづくりについては、「鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める」(44.3%)、「交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める」(35.3%)、「安全で快適な自転車の利用環境を整備する」(30.7%)が重視されており、交通環境の改善が求められています。

キ 防災

- ・災害に強いまちづくりについては、「安全な避難場所の整備や避難地として活用できる公園等を整備する」(49.6%)、「災害時の食料や毛布等を備蓄する倉庫を整備する」(34.0%)、「災害危険箇所や被害予想について広く市民に情報を提供する」(27.3%)が重視されており、ソフト対策を含めた取組が求められています。

ク 都市と農の共生

- ・市街化区域内農地のあり方について、残すべきとする回答が7割を占めています。特に市街化区域が設定されている網干・広畑・飾磨・灘・東部・北部地域等において市街化区域内農地を残すべきの回答割合が市全体を上回っており、広畑地域では8割以上を占めています。
- ・市街化区域内農地に期待する役割として、「地元産の新鮮な農産物を供給する」(47.2%)、「鳥やトンボ、魚等が住む環境を残す」(34.0%)、「生活に安らぎや潤いをもたらす」(30.0%)ことが求められています。
- ・市街化区域内農地が農業体験の場(市民農園、農業体験農園、収穫体験農園など)として提供される場合、利用したいと思う人は26.5%となっています。30・40代では利用したいと思う人の割合が比較的高く、4割前後を占めています。

3. 調査結果【18歳以上の市民】

(1) 地域の住みやすさ〔個別評価〕

問：お住まいの地域の住みやすさについて、どのようにお考えですか。(〇はそれぞれ1つ)

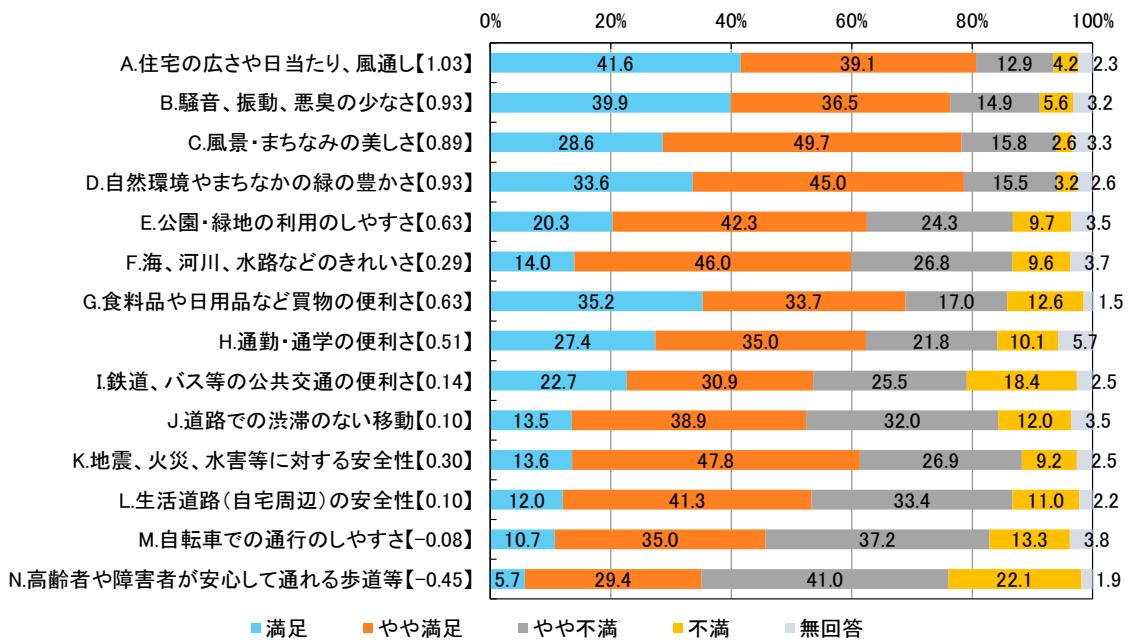
ア 市全体

- ・「A. 住宅の日当たりや風通し」(満足度の評価点 1.03 点、以下同じ。)、 「B. 騒音、振動、悪臭等の少なさ」(0.93 点)、 「D. 自然環境やまちなかの緑の豊かさ」(0.93 点)、 「C. 風景・まちなみの美しさ」(0.89 点) の満足度が高く、「満足」と「やや満足」の合計(以下「満足計」という。)が7割以上を占めています。
- ・快適性や利便性に関する項目については、総じて満足度が高い一方、安全・安心に関する項目については、「K. 地震、火災、水害等に対する安全性」(0.30 点)を除き満足度が低くなっています。特に、「N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等」(-0.45 点)、 「M. 自転車での通行のしやすさ」(-0.08 点)では「やや不満」と「不満」の合計(以下「不満計」という。)が満足計を上回っています。
- ・前回(平成24年度実施)調査と比較すると、満足度の上位・下位の傾向は同様の結果となっていますが、ほとんどの項目で満足度が向上しています。

■ 満足度の評価方法

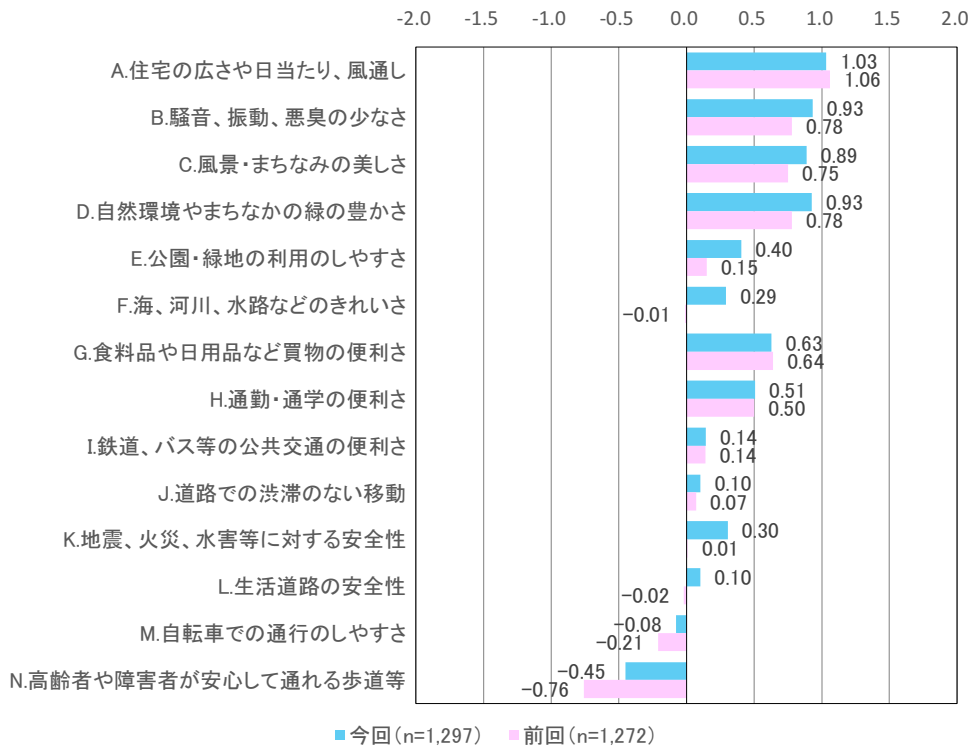
- ・地域の住みやすさについて、各項目の満足度を評価するため、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の回答者数の得点付けを行いました。
満足度の評価点 = (満足 × 2 点 + やや満足 × 1 点 - やや不満 × 1 点 - 不満 × 2 点) ÷ (回答者数 - 無回答)

図表 3.1 住みやすさの満足度



注：【 】内の値は評価点

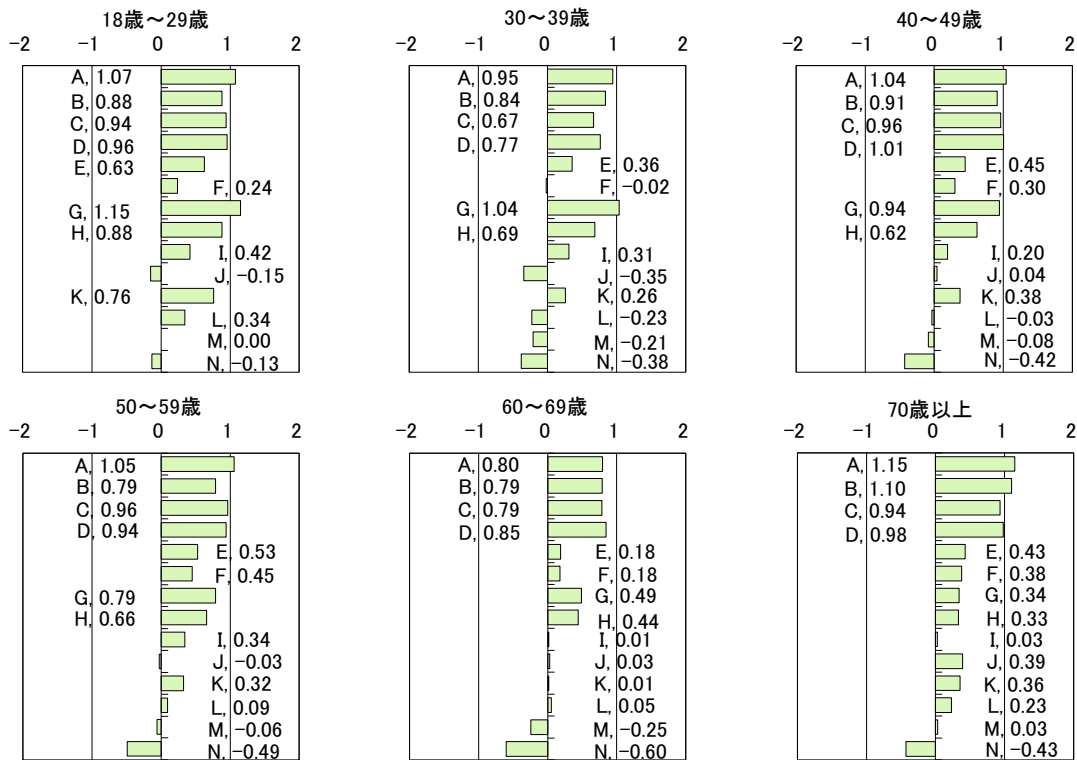
図表 3.2 住みやすさの満足度（評価点）



イ 年齢別

- ・40歳未満の世代では「G. 食料品や日用品など買物の便利さ」の満足度が最も高くなっていますが、年齢が上がるにつれて「G. 食料品や日用品など買物の便利さ」の満足度が低下する傾向にあります。
- ・30代では、「L. 生活道路の安全性」「M. 自転車での通行のしやすさ」の満足度が他の世代と比較して低くなっています。
- ・いずれの世代でも「N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等」の満足度が低く、不満計が満足計を上回っています。

図表 3.3 年齢別にみた住みやすさの満足度（評価点）

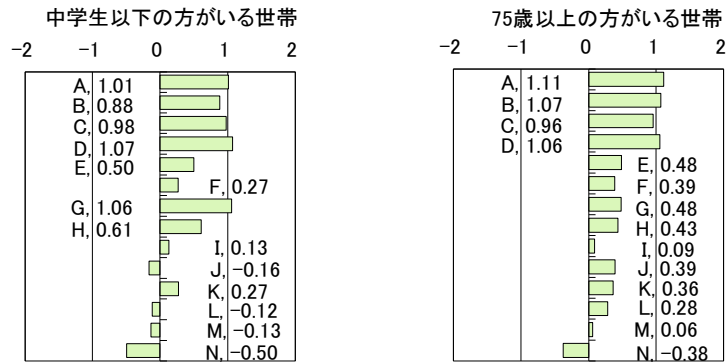


A. 住宅の日当たりや風通し	F. 海、河川、水路などのきれいさ	K. 地震、火災、水害等に対する安全性
B. 騒音、振動、悪臭などの少なさ	G. 食料品や日用品など買物の便利さ	L. 生活道路の安全性
C. 風景・まちなみの美しさ	H. 通勤・通学の便利さ	M. 自転車での通行のしやすさ
D. 自然環境やちなかの緑の豊かさ	I. 鉄道、バス等の公共交通の便利さ	N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等
E. 公園・緑地の利用しやすさ	J. 道路での渋滞のない移動	

ウ 家族構成別

- 中学生以下の方がいる世帯では、「J. 道路での渋滞のない移動」のほか、「L. 生活道路の安全性」「M. 自転車での通行のしやすさ」「N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等」の安全・安心に関する項目の満足度が低く、不満計が満足計を上回っています。75歳以上の方がいる世帯では「N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等」の満足度が低くなっています。

図表 3.4 家族構成別にみた住みやすさの満足度（評価点）

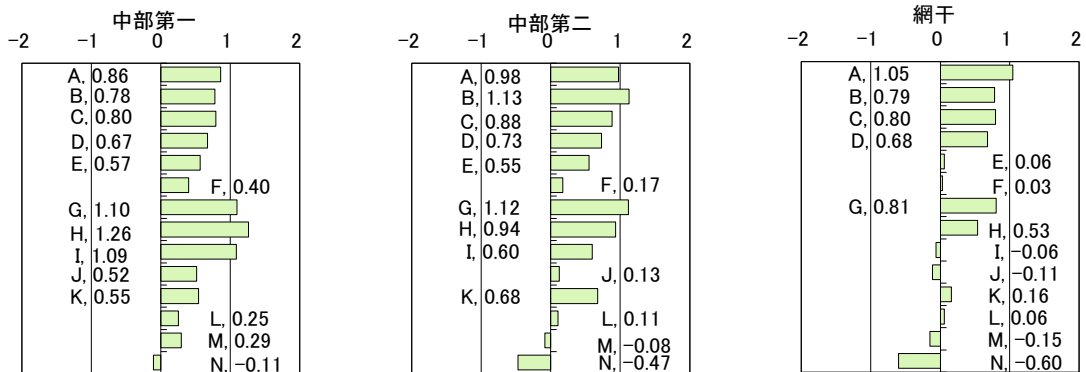


A. 住宅の日当たりや風通し	F. 海、河川、水路などのきれいさ	K. 地震、火災、水害等に対する安全性
B. 騒音、振動、悪臭などの少なさ	G. 食料品や日用品など買物の便利さ	L. 生活道路の安全性
C. 風景・まちなみの美しさ	H. 通勤・通学の便利さ	M. 自転車での通行のしやすさ
D. 自然環境やまちなかの緑の豊かさ	I. 鉄道、バス等の公共交通の便利さ	N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等
E. 公園・緑地の利用しやすさ	J. 道路での渋滞のない移動	

エ 地域別

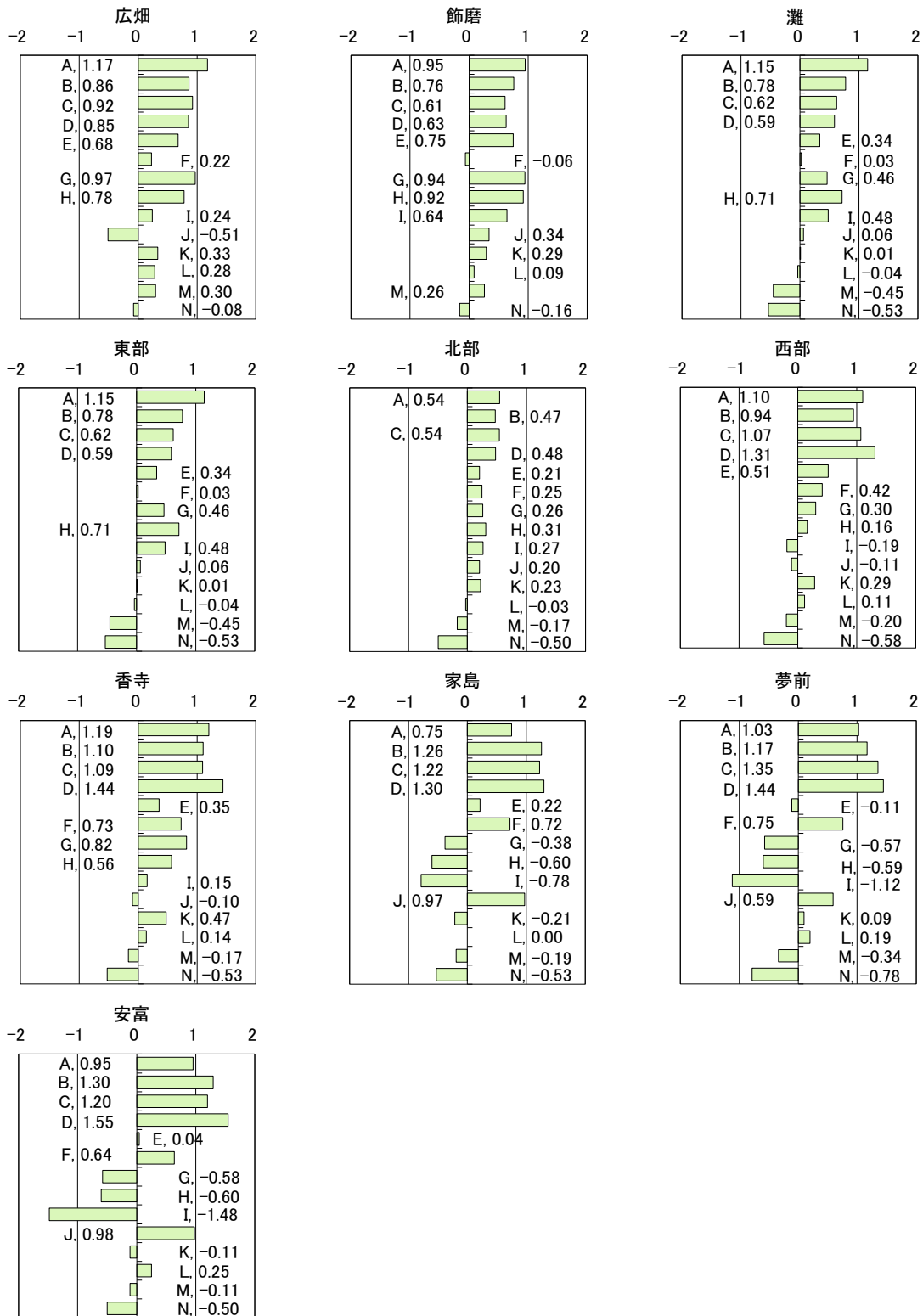
- 中部第一・中部第二・網干・飾磨・灘・東部・北部・西部・香寺地域では、「N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等」の満足度が最も低くなっています。
- 広畑地域では「J. 道路での渋滞のない移動」の満足度が最も低くなっています。
- 家島・安富・夢前地域では、「I. 鉄道、路線バスなど公共交通の便利さ」の満足度が最も低く、「G. 食料品や日用品など買物の便利さ」「H. 通勤・通学の便利さ」の満足度についても他の地域より著しく低くなっています。

図表 3.5 地域別にみた住みやすさの満足度（評価点）



A. 住宅の日当たりや風通し	F. 海、河川、水路などのきれいさ	K. 地震、火災、水害等に対する安全性
B. 騒音、振動、悪臭などの少なさ	G. 食料品や日用品など買物の便利さ	L. 生活道路の安全性
C. 風景・まちなみの美しさ	H. 通勤・通学の便利さ	M. 自転車での通行のしやすさ
D. 自然環境やまちなかの緑の豊かさ	I. 鉄道、バス等の公共交通の便利さ	N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等
E. 公園・緑地の利用しやすさ	J. 道路での渋滞のない移動	

図表 3.5 地域別にみた住みやすさの満足度（評価点）（つづき）



- | | | |
|--------------------|--------------------|-----------------------|
| A. 住宅の日当たりや風通し | F. 海、河川、水路などのきれいさ | K. 地震、火災、水害等に対する安全性 |
| B. 騒音、振動、悪臭などの少なさ | G. 食料品や日用品など買物の便利さ | L. 生活道路の安全性 |
| C. 風景・まちなみの美しさ | H. 通勤・通学の便利さ | M. 自転車での通行のしやすさ |
| D. 自然環境やまちなかの緑の豊かさ | I. 鉄道、バス等の公共交通の便利さ | N. 高齢者や障害者が安心して通れる歩道等 |
| E. 公園・緑地の利用しやすさ | J. 道路での渋滞のない移動 | |

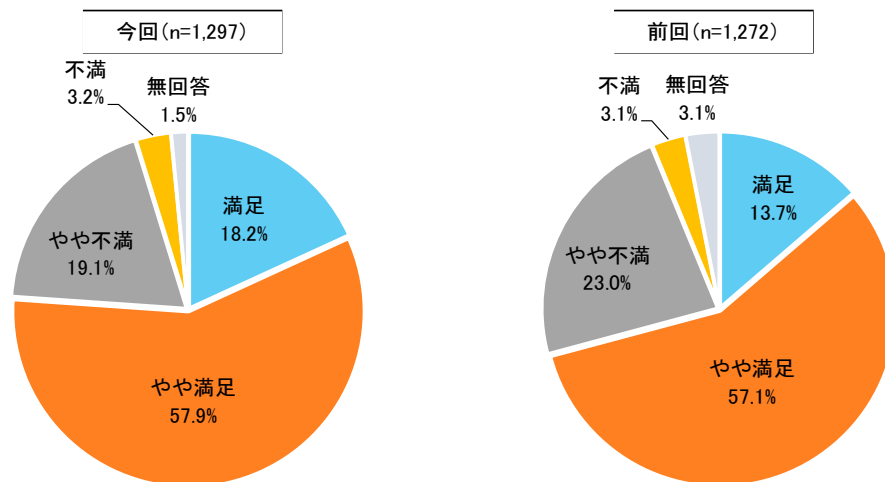
(2) 地域の住みやすさ [総合評価]

問：全体的にみた地域の住みやすさについてどのようにお考えですか。(〇は1つ)

ア 市全体

- ・全体的な地域の住みやすさは「やや満足」が57.9%と最も高く、「満足」(18.2%)を加えた満足計は7割以上を占めています。不満計は22.4%となっています。
- ・前回(平成24年度実施)調査と比較すると、満足計が5ポイント増加しています。

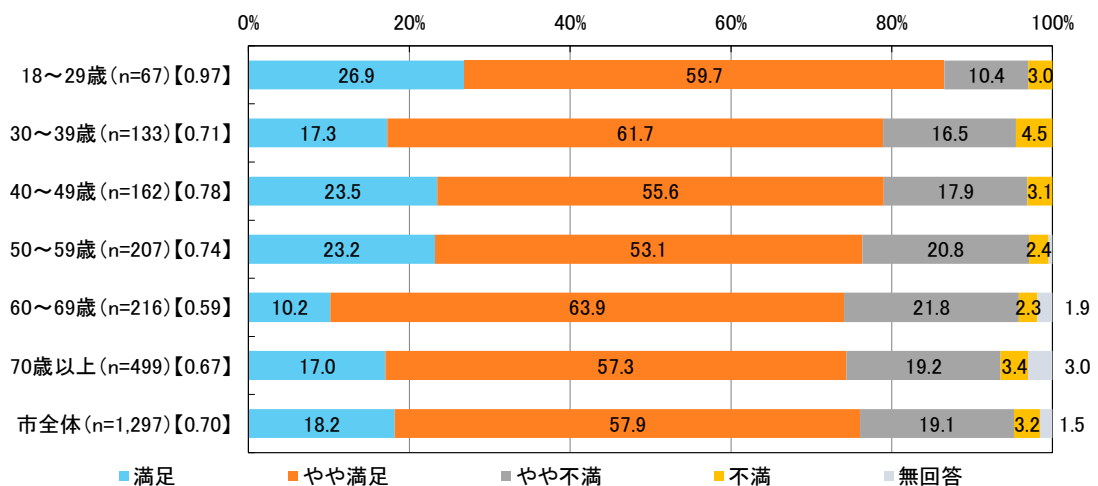
図表 3.6 住みやすさの満足度 [総合評価]



イ 年齢別

- ・60歳未満の世代では、満足度の評価点が市全体を上回っています。特に、18～29歳では満足計が8割以上を占めています。

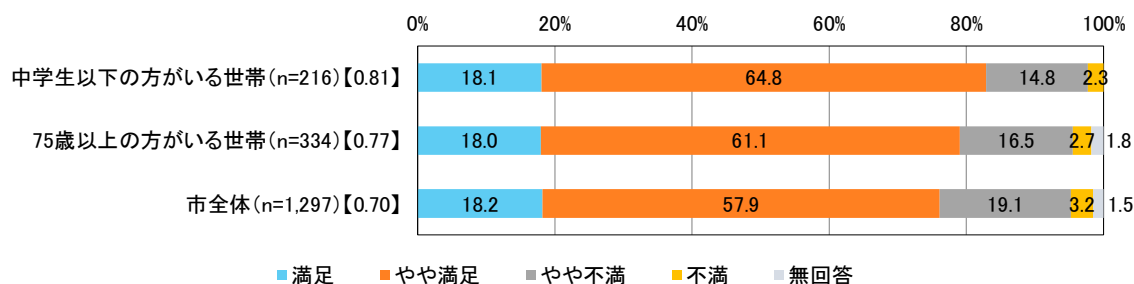
図表 3.7 年齢別にみた住みやすさの満足度 [総合評価]



ウ 家族構成別

- ・中学生以下の方がいる世帯、75歳以上の方がいる世帯ともに満足度の評価点が市全体を上回っています。

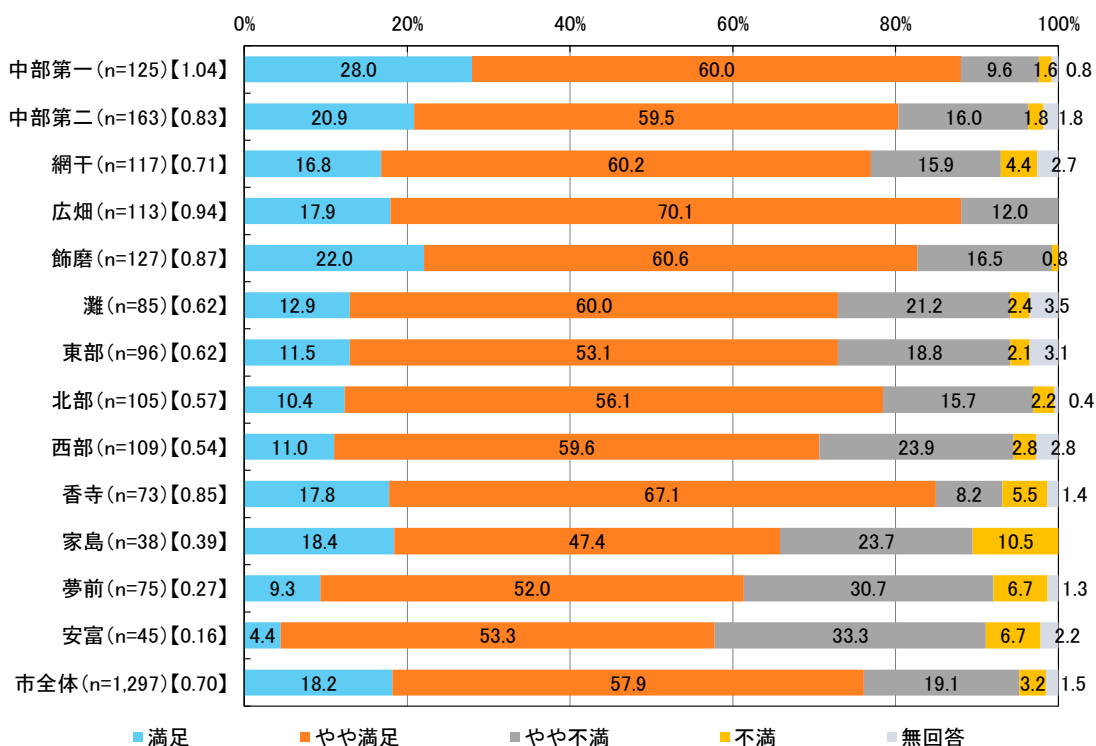
図表 3.8 家族構成別にみた住みやすさの満足度 [総合評価]



エ 地域別

- ・中部第一・中部第二・網干・広畑・飾磨・香寺地域では、満足度の評価点が市全体を上回っていますが、灘・東部・北部・西部・家島・夢前・安富地域では、満足度の評価点が市全体を下回っており、最も満足度が低い安富地域 (0.16 点) では、不満計が4割を占めています。

図表 3.9 地域別にみた住みやすさの満足度 [総合評価]



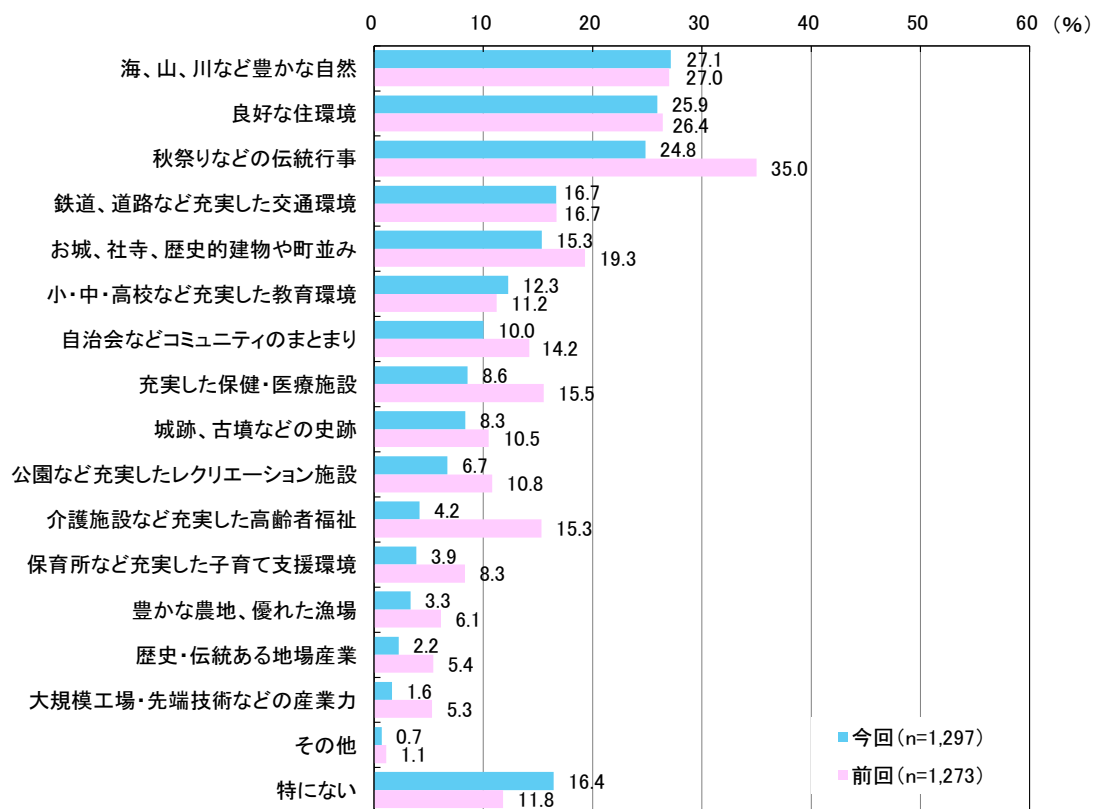
(3) 地域の特性・誇り

問：お住まいの地域の魅力や誇りとして感じている地域資源は何ですか。(〇は3つまで)

ア 市全体

- ・「海、山、川など豊かな自然」が 27.1%と最も高く、次いで「良好な住環境」が 25.9%、「秋祭りなどの伝統行事」が 24.8%となっています。
- ・前回（平成 24 年度実施）調査と比較すると、上位 3 項目は同様の結果となっていますが、「秋祭りなどの伝統行事」が 10 ポイント以上減少しています。

図表 3.10 地域の特性・誇り



イ 地域別

- ・網干・広畑・飾磨・灘地域では「秋祭りなどの伝統行事」が最も高くなっています。特に、灘地域では6割以上を占めています。
- ・中部第二・東部・香寺地域では「良好な住環境」が最も高くなっています。
- ・北部・西部・家島・安富・夢前地域では「海、山、川など豊かな自然」が最も高くなっています。特に、家島・夢前地域では6割以上を占めています。
- ・中部第一地域では「お城、社寺、歴史的建物や町並み」が最も高くなっています。

図表 3.11 地域別にみた地域の特性・誇り

	回答者数	海、山、川など豊かな自然	お城、社寺、歴史的建物や町並み	城跡、古墳などの史跡	秋祭りなどの伝統行事	豊かな農地、優れた漁場	大規模工場・先端技術等の産業力	歴史・伝統ある地場産業	良好な住環境	鉄道、道路など充実した交通環境	公園など充実したレクリエーション施設	充実した保健・医療施設	介護施設など充実した高齢者福祉	保育所など充実した子育て支援環境	小・中・高校など充実した教育環境	自治会などコミュニティのまとめ	その他	特にな
中部第一	125人	7	58	32	5	0	2	3	42	29	5	25	2	2	32	8	1	13
	100%	5.6	46.4	25.6	4.0	0.0	1.6	2.4	33.6	23.2	4.0	20.0	1.6	1.6	25.6	6.4	0.8	10.4
中部第二	163人	16	23	9	32	1	0	3	66	40	21	21	5	4	35	15	1	25
	(%)	9.8	14.1	5.5	19.6	0.6	0.0	1.8	40.5	24.5	12.9	12.9	3.1	2.5	21.5	9.2	0.6	15.3
網干	113人	20	15	6	57	5	4	3	31	16	7	9	2	2	7	11	1	18
	100%	17.7	13.3	5.3	50.4	4.4	3.5	2.7	27.4	14.2	6.2	8.0	1.8	1.8	6.2	9.7	0.9	15.9
広畑	117人	33	15	5	38	2	8	2	33	20	2	8	4	7	16	11	1	21
	100%	28.2	12.8	4.3	32.5	1.7	6.8	1.7	28.2	17.1	1.7	6.8	3.4	6.0	13.7	9.4	0.9	17.9
飾磨	127人	15	17	8	59	1	5	1	26	36	25	8	3	6	10	19	1	20
	100%	11.8	13.4	6.3	46.5	0.8	3.9	0.8	20.5	28.3	19.7	6.3	2.4	4.7	7.9	15.0	0.8	15.7
灘	85人	27	10	2	53	2	0	5	14	14	4	9	8	3	3	4	0	5
	100%	31.8	11.8	2.4	62.4	2.4	0.0	5.9	16.5	16.5	4.7	10.6	9.4	3.5	3.5	4.7	0.0	5.9
東部	96人	19	11	19	16	5	0	2	21	15	3	5	3	2	6	14	0	25
	100%	19.8	11.5	19.8	16.7	5.2	0.0	2.1	21.9	15.6	3.1	5.2	3.1	2.1	6.3	14.6	0.0	26.0
北部	105人	27	14	8	21	3	0	2	25	18	2	9	6	4	18	14	1	16
	100%	25.7	13.3	7.6	20.0	2.9	0.0	1.9	23.8	17.1	1.9	8.6	5.7	3.8	17.1	13.3	1.0	15.2
西部	109人	54	18	7	6	2	1	1	32	8	11	7	4	8	12	7	1	22
	100%	49.5	16.5	6.4	5.5	1.8	0.9	0.9	29.4	7.3	10.1	6.4	3.7	7.3	11.0	6.4	0.9	20.2
香寺	73人	22	3	2	10	4	0	0	25	13	6	1	2	6	12	5	0	14
	100%	30.1	4.1	2.7	13.7	5.5	0.0	0.0	34.2	17.8	8.2	1.4	2.7	8.2	16.4	6.8	0.0	19.2
家島	38人	26	3	1	11	6	0	4	3	0	0	0	2	0	2	5	0	6
	100%	68.4	7.9	2.6	28.9	15.8	0.0	10.5	7.9	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	13.2	0.0	15.8
夢前	75人	51	3	6	8	7	0	0	10	2	1	2	6	3	3	14	1	13
	100%	68.0	4.0	8.0	10.7	9.3	0.0	0.0	13.3	2.7	1.3	2.7	8.0	4.0	4.0	18.7	1.3	17.3
安富	45人	26	1	0	4	4	0	1	4	0	0	4	5	3	2	3	1	10
	100%	57.8	2.2	0.0	8.9	8.9	0.0	2.2	8.9	0.0	0.0	8.9	11.1	6.7	4.4	6.7	2.2	22.2
市全体	、297人	352	199	108	322	43	21	29	336	216	87	111	54	50	159	130	9	213
	100%	27.1	15.3	8.3	24.8	3.3	1.6	2.2	25.9	16.7	6.7	8.6	4.2	3.9	12.3	10.0	0.7	16.4

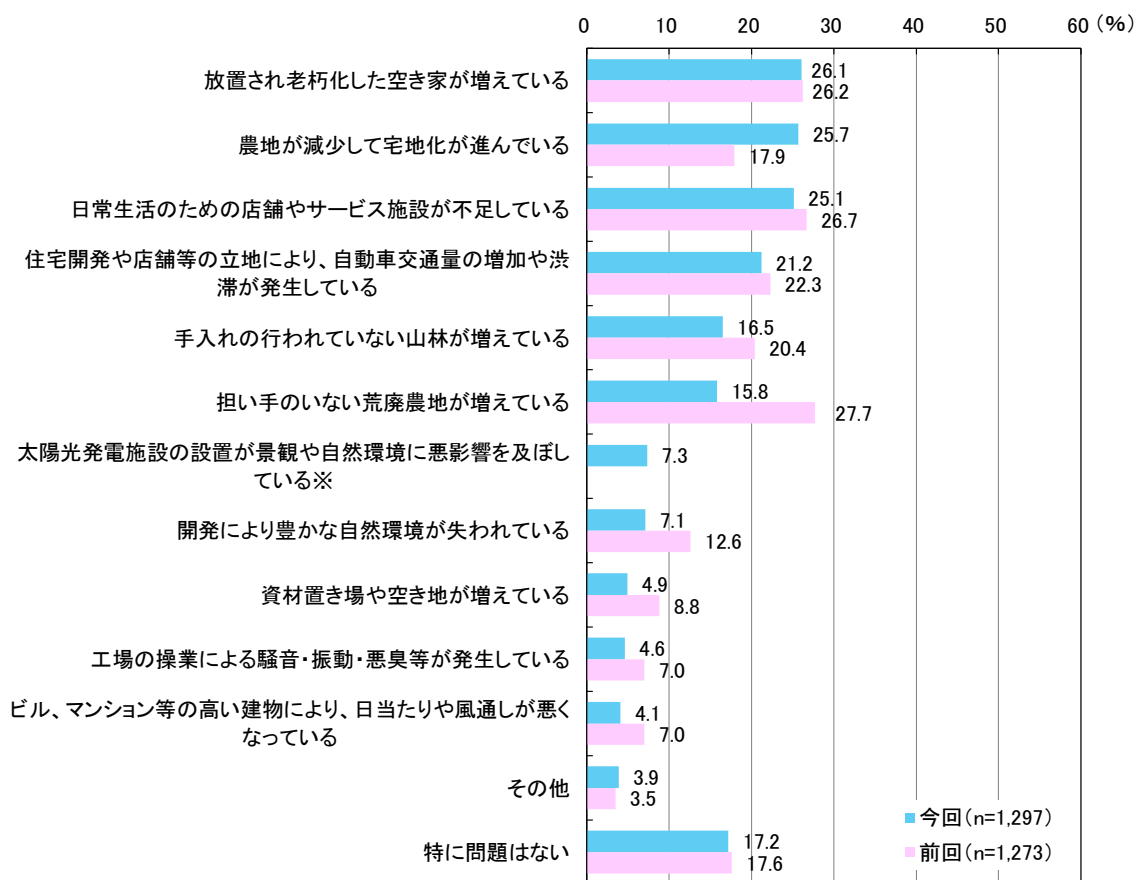
(4) 土地利用の問題点

問：お住まいの地域の土地利用について、どのような問題がありますか。(〇は3つまで)

ア 市全体

- ・「放置され老朽化した空き家が増えている」が26.1%と最も高く、次いで「農地が減少して宅地化が進んでいる」が25.7%、「日常生活のための店舗やサービス施設が不足している」が25.1%となっています。前回（平成24年度実施）調査と比較して「農地が減少して宅地化が進んでいる」が7.8ポイント増加しています。
- ・「特に問題ない」は17.2%となっています。

図表 3.12 土地利用の問題点



注：※印の選択肢は今回調査で追加したもの

イ 地域別

- ・家島・夢前・安富地域では、「手入れの行われていない山林や原野が増えている」「担い手のない耕作放棄地が増えている」「日常生活のための店舗やサービス施設が不足している」のいずれかまたはすべてが高く、安富・夢前地域では5割前後を占めています。「日常生活のための店舗やサービス施設が不足している」は、北部・西部地域においても最も高くなっています。
- ・中心部や臨海部では、「住宅の開発や店舗等の立地により、自動車交通量の増加や渋滞が発生している」が高いほか、中部第二・広畑・飾磨・東部地域では「農地が減少して宅地化が進んでいる」が最も高くなっています。
- ・「放置され老朽化した空き家が増えている」は、灘・北部・家島地域等で比較的高く、特に家島地域では6割以上を占めています。

図表 3.13 地域別にみた土地利用の問題点

	回答者数	手入れの行われていない山林や原野が増えている	開発により豊かな自然環境が失われている	太陽光発電施設の設置が景観や自然環境に悪影響を及ぼしている	担い手のない荒廃農地が増えている	農地が減少して宅地化が進んでいる	資材置き場や空き地が増えている	放置され老朽化した空き家が増えている	ビル、マンション等の高い建物により、日当たりや風通しが悪くなっている	日常生活のための店舗やサービス施設が不足している	住宅開発や店舗等の立地により、自動車交通量の増加や渋滞が発生している	工場の操業による騒音・振動・悪臭等が発生している	その他	特に問題はない
中部第一	125人	7	12	7	3	13	8	31	23	24	32	4	7	27
	100%	5.6	9.6	5.6	2.4	10.4	6.4	24.8	18.4	19.2	25.6	3.2	5.6	21.6
中部第二	163人	9	13	8	10	54	5	31	6	23	43	0	12	42
	(%)	5.5	8.0	4.9	6.1	33.1	3.1	19.0	3.7	14.1	26.4	0.0	7.4	25.8
網干	113人	3	4	5	17	22	11	31	2	26	28	14	4	22
	100%	2.7	3.5	4.4	15.0	19.5	9.7	27.4	1.8	23.0	24.8	12.4	3.5	19.5
広畑	117人	11	12	0	6	48	4	28	3	16	34	10	5	29
	100%	9.4	10.3	0.0	5.1	41.0	3.4	23.9	2.6	13.7	29.1	8.5	4.3	24.8
飾磨	127人	2	9	8	9	44	5	35	5	23	41	13	1	28
	100%	1.6	7.1	6.3	7.1	34.6	3.9	27.6	3.9	18.1	32.3	10.2	0.8	22.0
灘	85人	16	8	5	8	25	6	32	1	24	17	2	5	12
	100%	18.8	9.4	5.9	9.4	29.4	7.1	37.6	1.2	28.2	20.0	2.4	5.9	14.1
東部	96人	12	7	8	23	41	5	16	2	23	25	9	3	12
	100%	12.5	7.3	8.3	24.0	42.7	5.2	16.7	2.1	24.0	26.0	9.4	3.1	12.5
北部	105人	14	6	3	16	31	2	35	5	37	13	1	3	15
	100%	13.3	5.7	2.9	15.2	29.5	1.9	33.3	4.8	35.2	12.4	1.0	2.9	14.3
西部	109人	28	8	13	28	27	5	24	3	29	16	4	2	14
	100%	25.7	7.3	11.9	25.7	24.8	4.6	22.0	2.8	26.6	14.7	3.7	1.8	12.8
香寺	73人	16	6	10	20	12	0	18	0	15	18	1	6	11
	100%	21.9	8.2	13.7	27.4	16.4	0.0	24.7	0.0	20.5	24.7	1.4	8.2	15.1
家島	38人	21	1	1	5	2	8	24	0	22	0	0	0	0
	100%	55.3	2.6	2.6	13.2	5.3	21.1	63.2	0.0	57.9	0.0	0.0	0.0	0.0
夢前	75人	47	3	16	30	3	2	16	1	37	3	1	1	5
	100%	62.7	4.0	21.3	40.0	4.0	2.7	21.3	1.3	49.3	4.0	1.3	1.3	6.7
安富	45人	23	2	9	26	2	2	12	0	22	0	0	1	2
	100%	51.1	4.4	20.0	57.8	4.4	4.4	26.7	0.0	48.9	0.0	0.0	2.2	4.4
市全体	1,297人	214	92	95	205	333	64	338	53	326	275	60	50	223
	100%	16.5	7.1	7.3	15.8	25.7	4.9	26.1	4.1	25.1	21.2	4.6	3.9	17.2

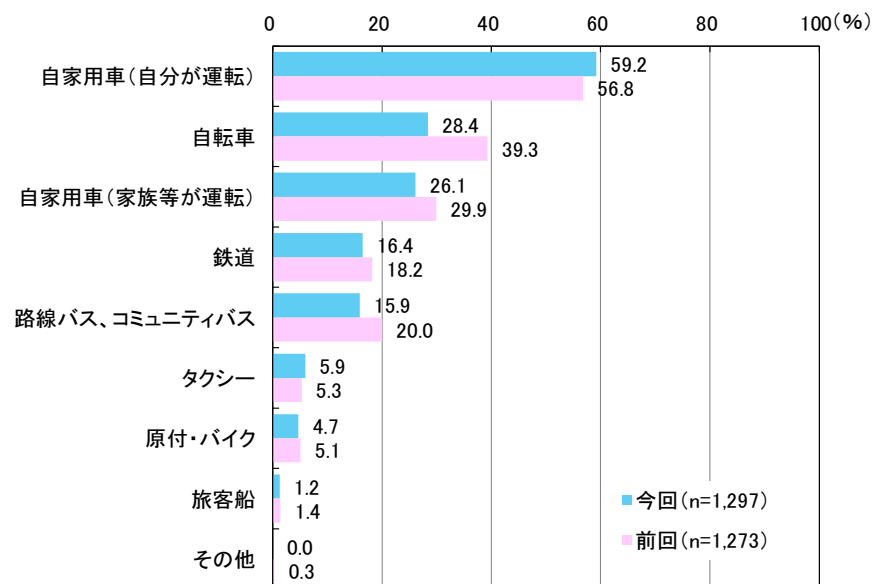
(5) 主な交通手段

問：買物、通勤・通学、通院など日常生活の主な交通手段（徒歩以外）は何ですか。（〇は2つまで）

ア 市全体

- ・「自家用車（自分が運転）」が 59.2%と最も高く、次いで「自転車」が 28.4%、「自家用車（家族などが運転）」が 26.1%となっています。
- ・「自家用車（自分が運転）」と「自家用車（家族等が運転）」の両方を回答した人は 108 人（8.3%）であり、この重複分を除外した自家用車を主な移動手段としている人は 77.0%となっています。
- ・前回（平成 24 年度実施）調査と比較すると、自転車や公共交通の割合が低くなっています。

図表 3.14 主な交通手段



イ 年齢別

- ・すべての世代で「自家用車（自分が運転）」が最も高くなっていますが、70歳以上では、その割合が他の世代よりも低下しています。
- ・30歳未満や70歳以上では「自転車」の利用割合が比較的高く、それぞれ43.3%、31.9%となっています。

図表 3.15 年齢別にみた主な交通手段

	回答者数	鉄道	路線バス・コミュニティバス	旅客船	タクシー	自家用車(自分が運転)	自家用車(家族等が運転)	原付・バイク	自転車	その他
18～29歳	67人	23	6	1	1	35	21	1	29	0
	100%	34.3	9.0	1.5	1.5	52.2	31.3	1.5	43.3	0.0
30～39歳	133人	23	8	1	2	102	35	0	35	0
	100%	17.3	6.0	0.8	1.5	76.7	26.3	0.0	26.3	0.0
40～49歳	162人	32	13	2	0	119	40	7	46	0
	100%	19.8	8.0	1.2	0.0	73.5	24.7	4.3	28.4	0.0
50～59歳	207人	40	25	3	3	149	38	9	44	0
	100%	19.3	12.1	1.4	1.4	72.0	18.4	4.3	21.3	0.0
60～69歳	216人	34	40	3	3	144	47	15	54	0
	100%	15.7	18.5	1.4	1.4	66.7	21.8	6.9	25.0	0.0
70歳以上	499人	58	110	6	67	210	154	29	159	0
	100%	11.6	22.0	1.2	13.4	42.1	30.9	5.8	31.9	0.0
市全体	1,297人	213	206	16	77	768	339	61	368	0
	100%	16.4	15.9	1.2	5.9	59.2	26.1	4.7	28.4	0.0

ウ 家族構成別

- ・いずれの世帯でも「自家用車（自分が運転）」が最も高く、特に中学生以下の方がいる世帯では8割以上を占めています。

図表 3.16 家族構成別にみた主な交通手段

	回答者数	鉄道	路線バス・コミュニティバス	旅客船	タクシー	自家用車(自分が運転)	自家用車(家族等が運転)	原付・バイク	自転車	その他
中学生以下の方がいる世帯	216人	35	13	1	2	173	62	2	61	0
	100%	16.2	6.0	0.5	0.9	80.1	28.7	0.9	28.2	0.0
75歳以上の方がいる世帯	334人	49	62	6	31	167	113	17	94	0
	100%	14.7	18.6	1.8	9.3	50.0	33.8	5.1	28.1	0.0
市全体	1,297人	213	206	16	77	768	339	61	368	0
	100%	16.4	15.9	1.2	5.9	59.2	26.1	4.7	28.4	0.0

エ 地域別

- ・家島地域を除き、いずれの地域でも「自家用車（自分が運転）」が最も高くなっています。家島地域では「原付・バイク」（55.3%）、「旅客船」（42.1%）が主な交通手段となっています。
- ・総じて自家用車の利用が多いものの、中部第一・中部第二・網干・広畑・飾磨・灘地域では「自転車」が比較的高く、3割以上（中部第一地域では4割以上）を占めています。

図表 3.17 地域別にみた主な交通手段

	回答者数	鉄道	路線バス・コミュニティバス	旅客船	タクシー	自家用車（自分が運転）	自家用車（家族等が運転）	原付・バイク	自転車	その他
中部第一	125人	17	30	0	11	53	34	1	51	0
	100%	13.6	24.0	0.0	8.8	42.4	27.2	0.8	40.8	0.0
中部第二	163人	19	38	0	11	93	37	6	65	0
	100%	11.7	23.3	0.0	6.7	57.1	22.7	3.7	39.9	0.0
網干	113人	25	5	0	8	77	31	5	42	0
	100%	22.1	4.4	0.0	7.1	68.1	27.4	4.4	37.2	0.0
広畑	117人	28	17	0	6	72	31	2	41	0
	100%	23.9	14.5	0.0	5.1	61.5	26.5	1.7	35.0	0.0
飾磨	127人	33	7	0	9	68	36	4	39	0
	100%	26.0	5.5	0.0	7.1	53.5	28.3	3.1	30.7	0.0
灘	85人	26	3	0	6	45	20	2	28	0
	100%	30.6	3.5	0.0	7.1	52.9	23.5	2.4	32.9	0.0
東部	96人	16	11	0	5	67	27	3	23	0
	100%	16.7	11.5	0.0	5.2	69.8	28.1	3.1	24.0	0.0
北部	105人	10	28	0	7	63	24	8	16	0
	100%	9.5	26.7	0.0	6.7	60.0	22.9	7.6	15.2	0.0
西部	109人	10	24	0	2	82	26	2	24	0
	100%	9.2	22.0	0.0	1.8	75.2	23.9	1.8	22.0	0.0
家島	73人	0	7	16	0	3	3	21	5	0
	100%	0.0	18.4	42.1	0.0	7.9	7.9	55.3	13.2	0.0
安富	38人	0	5	0	0	32	23	0	4	0
	100%	0.0	11.1	0.0	0.0	71.1	51.1	0.0	8.9	0.0
夢前	75人	1	20	0	6	49	23	5	8	0
	100%	1.3	26.7	0.0	8.0	65.3	30.7	6.7	10.7	0.0
香寺	45人	22	2	0	5	53	21	2	15	0
	100%	30.1	2.7	0.0	6.8	72.6	28.8	2.7	20.5	0.0
市全体	1,297人	213	206	16	77	768	339	61	368	0
	100%	16.4	15.9	1.2	5.9	59.2	26.1	4.7	28.4	0.0

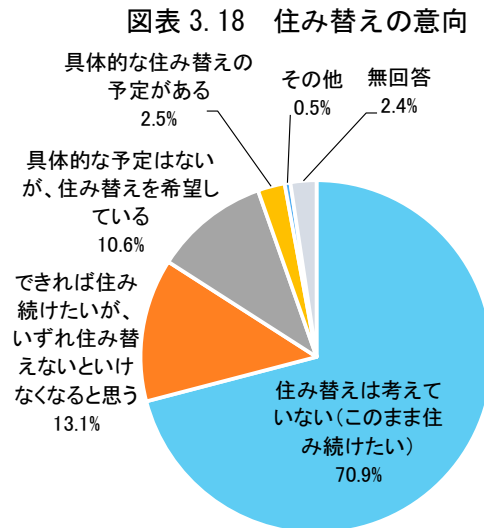
(6) 住み替えの意向

(住み替えの意向)

問：現在の住まいからの住み替えを考えていますか。(〇は1つ)

ア 市全体

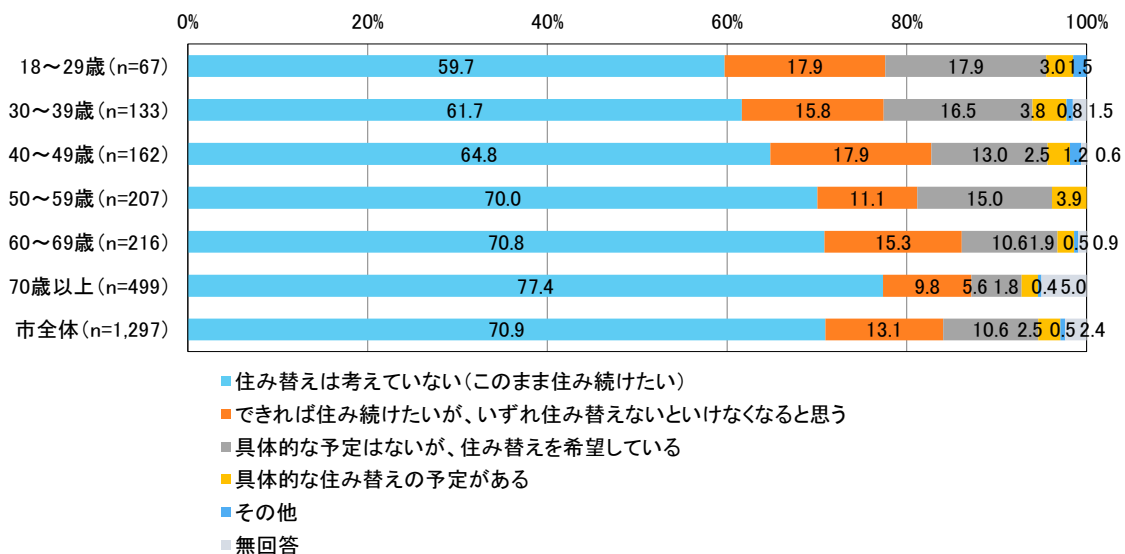
- ・「住み替えは考えていない(このまま住み続けたい)」が70.9%と最も高く、次いで「できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う」が13.1%、「具体的な予定はないが、住み替えを希望している」が10.6%となっています。



イ 年齢別

- ・高齢の世代ほど「住み替えは考えていない(このまま住み続けたい)」が高くなる傾向にあります。また、「できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う」「具体的な予定はないが、住み替えを希望している」「具体的な住み替えの予定がある」をあわせた住み替えを考えて(希望して)いる人は、70歳以上でも17.2%となっています。

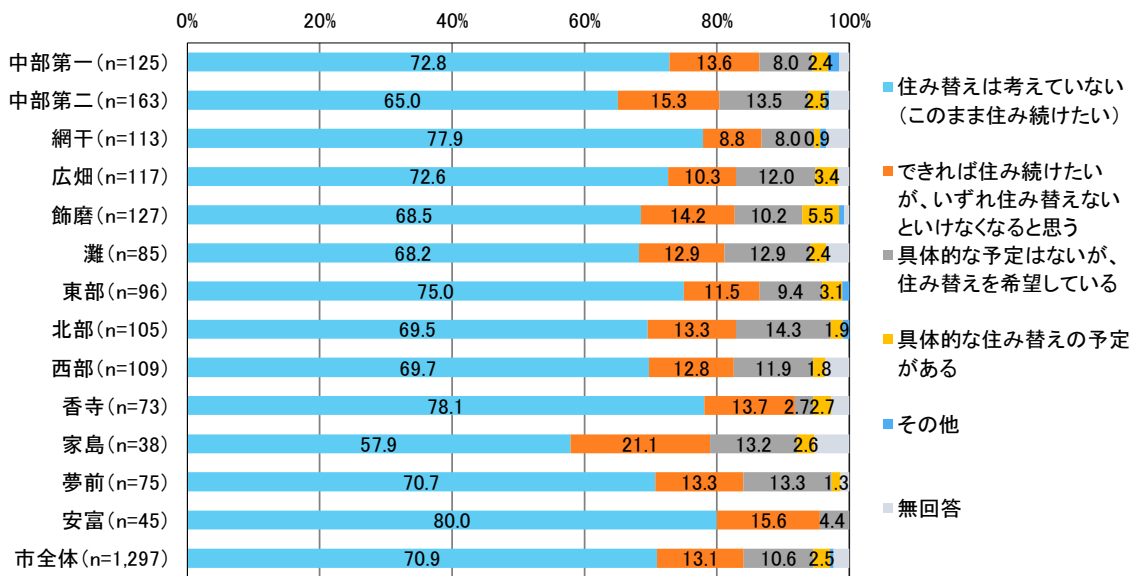
図表 3.19 年齢別にみた住み替えの意向



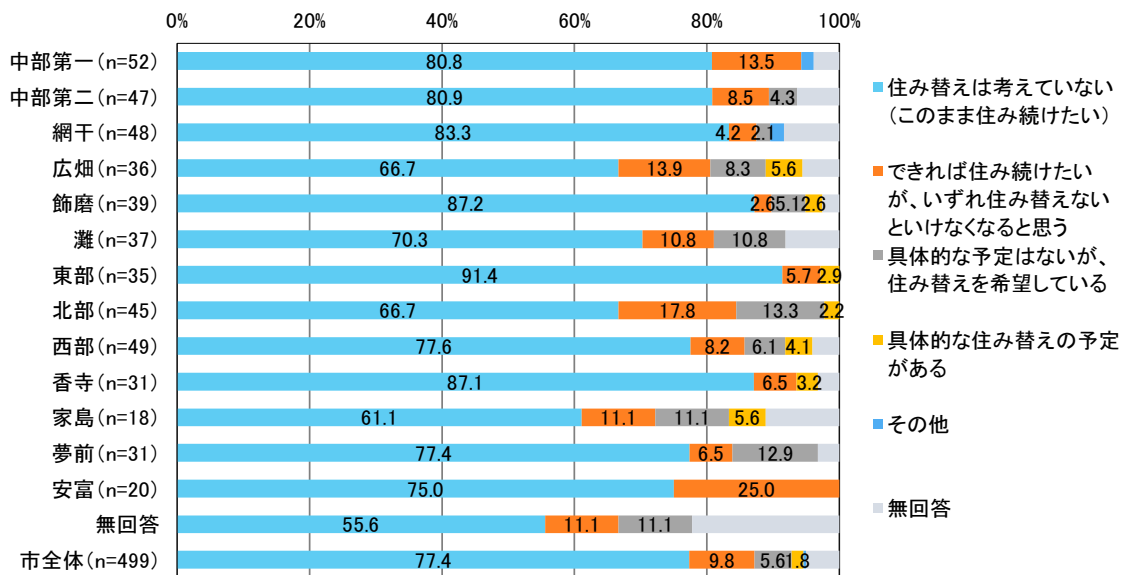
ウ 地域別

- ・家島地域では、「住み替えは考えていない（このまま住み続けたい）」が他の地域と比較して低く、「できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う」「具体的な予定はないが、住み替えを希望している」「具体的な住み替えの予定がある」をあわせた住み替えを考えて（希望して）いる人の割合は 36.8%となっています。
- ・70 歳以上の回答を地域別にみると、広畑・灘・北部・西部・家島・夢前・安富地域では、住み替えを考えて（希望して）いる人の割合が市全体を上回っており、特に、北部地域では3割以上を占めています。

表 3.20 地域別にみた住み替えの意向



図表 3.21 地域別にみた住み替えの意向（70 歳以上）



(住み替えの理由)

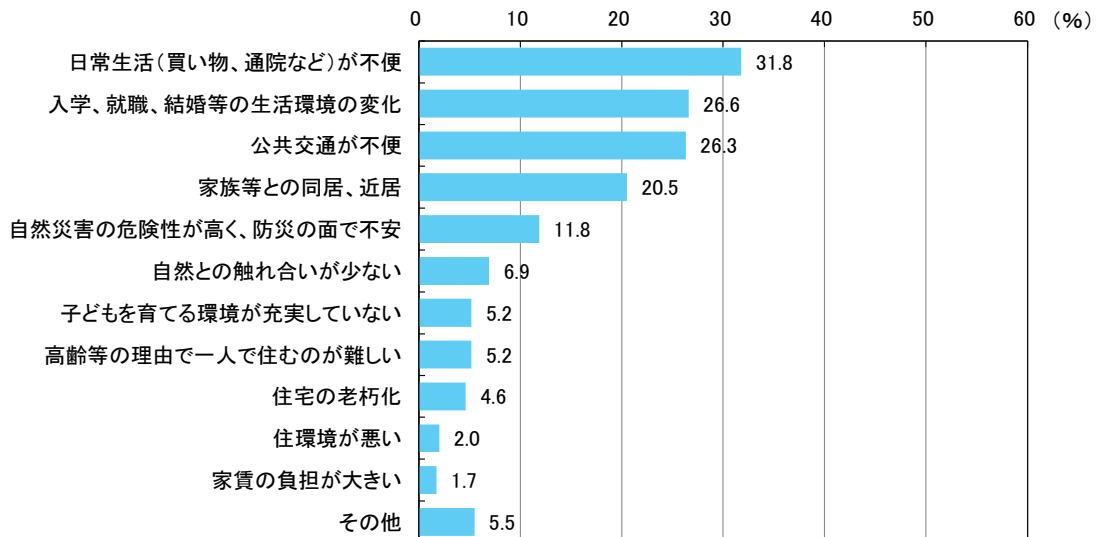
問：住み替えの理由は何ですか。(〇はいくつでも)

※前問で「できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う」「具体的な予定はないが、住み替えを希望している」「具体的な住み替えの予定がある」「その他」を回答された方が対象

ア 市全体

- ・住み替えを考えて(希望して)いる方(346人)に対して、その理由をたずねたところ、「日常生活(買い物、通院など)が不便」が31.8%と最も高く、次いで「入学、就職、結婚等の生活環境の変化」が26.6%、「公共交通が不便」が26.3%、「家族等との同居、近居」が20.5%となっています。

図表 3.22 住み替えの理由



イ 年齢別

- ・50歳未満では「入学、就職、結婚等の生活環境の変化」が最も高く、特に、18～29歳では6割以上を占めています。
- ・50歳以上では「日常生活（買い物、通院など）が不便」が最も高く、次いで「公共交通が不便」となっています。特に、70歳以上では「日常生活（買い物、通院など）が不便」が4割以上を占めています。

図表 3.23 年齢別にみた住み替えの理由

	回答者数	入学、就職結婚等の生活環境の変化	自然災害の危険性が高く、防災の面で不安	日常生活(買い物、通院など)が不便	公共交通が不便	子どもを育てる環境が充実していない	自然との触れ合いが少	家族等との同居、近居	住宅の老朽化	一人ですむのが難しい	高齢等の理由で	住環境が悪い	家賃の負担が大きい	その他
18～29歳	28人	18	1	3	3	4	1	5	0	0	0	0	0	0
	100%	64.3	3.6	10.7	10.7	14.3	3.6	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	49人	23	2	11	14	7	2	8	2	0	1	0	5	
	100%	46.9	4.1	22.4	28.6	14.3	4.1	16.3	4.1	0.0	2.0	0.0	4.1	
40～49歳	56人	28	6	15	14	4	2	13	1	0	1	0	3	
	100%	50.0	10.7	26.8	25.0	7.1	3.6	23.2	1.8	0.0	1.8	0.0	1.8	
50～59歳	62人	12	5	17	14	1	8	14	3	2	2	4	6	
	100%	19.4	8.1	27.4	22.6	1.6	12.9	22.6	4.8	3.2	3.2	6.5	4.8	
60～69歳	61人	7	10	24	19	1	7	9	5	5	1	2	2	
	100%	11.5	16.4	39.3	31.1	1.6	11.5	14.8	8.2	8.2	1.6	3.3	8.2	
70歳以上	88人	3	16	39	26	0	4	21	5	11	1	0	2	
	100%	3.4	18.2	44.3	29.5	0.0	4.5	23.9	5.7	12.5	1.1	0.0	5.7	
市全体	346人	92	41	110	91	18	24	71	16	18	7	6	19	
	100%	26.6	11.8	31.8	26.3	5.2	6.9	20.5	4.6	5.2	2.0	1.7	5.5	

ウ 地域別

- ・北部・西部・香寺・家島・夢前・安富地域では、「日常生活（買い物、通院など）が不便」「公共交通が不便」が上位を占めています。灘地域では「日常生活（買い物、通院など）が不便」が、東部地域では「公共交通が不便」が最も高くなっています。

図表 3.24 地域別にみた住み替えの理由

	回答者数	入学、就職結婚等の生活環境の変化	自然災害の危険性が高く、防災の面で不安	日常生活（買い物、通院など）が不便	公共交通が不便	子どもを育てる環境が充実していない	自然との触れ合いが少 ない	家族等との同居、近居	住宅の老朽化	高齢等の理由で一人 で住むのが難しい	住環境が悪い	家賃の負担が大きい	その他
中部第一	32人	12	0	4	1	0	3	5	1	4	2	0	5
	100%	37.5	0.0	12.5	3.1	0.0	9.4	15.6	3.1	12.5	6.3	0.0	15.6
中部第二	52人	15	4	8	3	4	3	14	2	2	0	3	3
	100%	28.8	7.7	15.4	5.8	7.7	5.8	26.9	3.8	3.8	0.0	5.8	5.8
網干	21人	5	5	5	7	2	2	8	0	2	1	0	0
	100%	23.8	23.8	23.8	33.3	9.5	9.5	38.1	0.0	9.5	4.8	0.0	0.0
広畑	30人	8	3	5	5	3	3	7	1	4	2	1	0
	100%	26.7	10.0	16.7	16.7	10.0	10.0	23.3	3.3	13.3	6.7	3.3	0.0
飾磨	39人	18	5	6	5	2	3	7	3	0	1	2	0
	100%	46.2	12.8	15.4	12.8	5.1	7.7	17.9	7.7	0.0	2.6	5.1	0.0
灘	24人	9	5	11	5	0	3	3	2	0	0	0	2
	100%	37.5	20.8	45.8	20.8	0.0	12.5	12.5	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3
東部	24人	4	4	7	10	2	0	8	1	0	1	0	2
	100%	16.7	16.7	29.2	41.7	8.3	0.0	33.3	4.2	0.0	4.2	0.0	8.3
北部	32人	4	4	16	12	1	3	6	1	3	0	0	1
	100%	12.5	12.5	50.0	37.5	3.1	9.4	18.8	3.1	9.4	0.0	0.0	3.1
西部	29人	5	3	12	10	0	1	5	1	0	0	0	3
	100%	17.2	10.3	41.4	34.5	0.0	3.4	17.2	3.4	0.0	0.0	0.0	10.3
香寺	14人	4	2	4	3	0	1	1	1	2	0	0	2
	100%	28.6	14.3	28.6	21.4	0.0	7.1	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	14.3
家島	14人	0	1	11	7	2	1	2	1	0	0	0	0
	100%	0.0	7.1	78.6	50.0	14.3	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
夢前	21人	6	3	17	16	1	0	3	0	0	0	0	0
	100%	28.6	14.3	81.0	76.2	4.8	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
安富	9人	1	1	3	6	0	0	2	2	0	0	0	0
	100%	11.1	11.1	33.3	66.7	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
市全体	346人	92	41	110	91	18	24	71	16	18	7	6	19
	100%	26.6	11.8	31.8	26.3	5.2	6.9	20.5	4.6	5.2	2.0	1.7	5.5

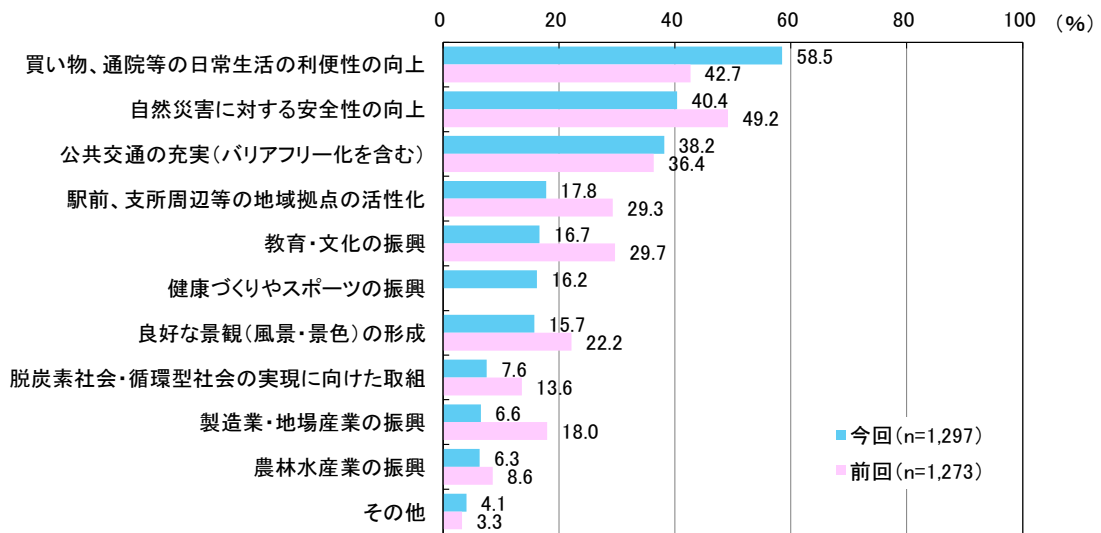
(7) 重点的な取組

問：今後のまちづくりにおいて、どれに重点を置くべきと思いますか。(〇は3つまで)

ア 市全体

- ・「買い物、通院等の日常生活の利便性の向上」が58.5%と最も高く、次いで「自然災害に対する安全性の向上」が40.4%、「公共交通の充実(バリアフリー化を含む)」が38.2%となっています。
- ・前回(平成24年度実施)調査と比較すると、上位3項目は同様の結果となっていますが、「買い物、通院等の日常生活の利便性の向上」が15.8ポイント増加しています。

図表 3.25 重点的な取組



注：前回調査の選択肢「教育・文化の振興や健康づくり」を今回調査では「教育・文化の振興」「健康づくりやスポーツの振興」に変更

イ 年齢別

- すべての世代で「買い物、通院等の日常生活の利便性の向上」が最も高く、特に、60歳以上の世代では6割以上を占めています。次いで高いのは、40歳未満の世代では「公共交通の充実(バリアフリー化を含む)」となっており、40歳以上の世代では「自然災害に対する安全性の向上」となっています。

図表 3.26 年齢別にみた重点的な取組

	回答者数	駅前、支所周辺等の地域拠点の活性化	買い物、通院等の日常生活の利便性の向上	公共交通の充実(バリアフリー化を含む)	製造業・地場産業の振興	農林水産業の振興	良好な景観(風景・景色)の形成	脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた取組	自然災害に対する安全性の向上	教育・文化の振興	健康づくりやスポーツの振興	その他
18～29歳	67人	13	28	21	7	7	14	7	14	20	6	4
	100%	19.4	41.8	31.3	10.4	10.4	20.9	10.4	20.9	29.9	9.0	6.0
30～39歳	133人	32	65	53	8	5	26	5	49	39	18	9
	100%	24.1	48.9	39.8	6.0	3.8	19.5	3.8	36.8	29.3	13.5	6.8
40～49歳	162人	31	79	65	12	10	27	9	68	52	18	11
	100%	19.1	48.8	40.1	7.4	6.2	16.7	5.6	42.0	32.1	11.1	6.8
50～59歳	207人	39	119	87	9	8	40	17	95	31	32	6
	100%	18.8	57.5	42.0	4.3	3.9	19.3	8.2	45.9	15.0	15.5	2.9
60～69歳	216人	39	133	83	18	18	33	20	98	25	35	5
	100%	18.1	61.6	38.4	8.3	8.3	15.3	9.3	45.4	11.6	16.2	2.3
70歳以上	499人	76	326	180	30	33	63	40	194	47	99	16
	100%	15.2	65.3	36.1	6.0	6.6	12.6	8.0	38.9	9.4	19.8	3.2
市全体	1,297人	231	759	495	85	82	204	98	524	216	210	53
	100%	17.8	58.5	38.2	6.6	6.3	15.7	7.6	40.4	16.7	16.2	4.1

ウ 地域別

- すべての地域で「買い物、通院等の日常生活の利便性の向上」が最も高く、特に、夢前・安富地域では7割以上を占めています。次いで高いのは、中部第一・東部・北部・夢前地域では「公共交通の充実(バリアフリー化を含む)」、中部第二・網干・広畑・飾磨・灘・西部・灘地域では「自然災害に対する安全性の向上」、家島地域では「製造業・地場産業の振興」となっています。

図表 3.27 地域別にみた重点的な取組

	回答者数	駅前、支所周辺等の地域拠点の活性化	買い物、通院等の日常生活の利便性の向上	公共交通の充実(バリアフリー化を含む)	製造業・地場産業の振興	農林水産業の振興	良好な景観(風景・景色)の形成	脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた取組	自然災害に対する安全性の向上	教育・文化の振興	健康づくりやスポーツの振興	その他
中部第一	125人	33	55	53	6	4	24	9	43	20	16	9
	100%	26.4	44.0	42.4	4.8	3.2	19.2	7.2	34.4	16.0	12.8	7.2
中部第二	163人	32	81	61	13	11	28	11	65	31	25	11
	100%	19.6	49.7	37.4	8.0	6.7	17.2	6.7	39.9	19.0	15.3	6.7
網干	113人	30	67	41	7	9	10	9	53	23	18	0
	100%	26.5	59.3	36.3	6.2	8.0	8.8	8.0	46.9	20.4	15.9	0.0
広畑	117人	16	60	40	8	5	19	9	53	25	19	8
	100%	13.7	51.3	34.2	6.8	4.3	16.2	7.7	45.3	21.4	16.2	6.8
飾磨	127人	29	70	48	7	1	30	12	56	23	22	3
	100%	22.8	55.1	37.8	5.5	0.8	23.6	9.4	44.1	18.1	17.3	2.4
灘	85人	20	53	33	8	4	14	3	35	10	13	1
	100%	23.5	62.4	38.8	9.4	4.7	16.5	3.5	41.2	11.8	15.3	1.2
東部	96人	17	60	42	5	5	17	10	28	14	18	2
	100%	17.7	62.5	43.8	5.2	5.2	17.7	10.4	29.2	14.6	18.8	2.1
北部	105人	10	67	42	5	7	12	7	41	18	24	4
	100%	9.5	63.8	40.0	4.8	6.7	11.4	6.7	39.0	17.1	22.9	3.8
西部	109人	13	70	43	4	4	18	13	53	13	19	4
	100%	11.9	64.2	39.4	3.7	3.7	16.5	11.9	48.6	11.9	17.4	3.7
香寺	73人	20	45	25	3	7	8	5	28	15	12	2
	100%	27.4	61.6	34.2	4.1	9.6	11.0	6.8	38.4	20.5	16.4	2.7
家島	38人	1	23	9	10	9	4	1	9	6	3	3
	100%	2.6	60.5	23.7	26.3	23.7	10.5	2.6	23.7	15.8	7.9	7.9
夢前	75人	4	62	32	3	6	11	3	28	12	14	3
	100%	5.3	82.7	42.7	4.0	8.0	14.7	4.0	37.3	16.0	18.7	4.0
安富	45人	1	33	17	5	9	4	4	20	2	5	1
	100%	2.2	73.3	37.8	11.1	20.0	8.9	8.9	44.4	4.4	11.1	2.2
市全体	1,297人	231	759	495	85	82	204	98	524	216	210	53
	100%	17.8	58.5	38.2	6.6	6.3	15.7	7.6	40.4	16.7	16.2	4.1

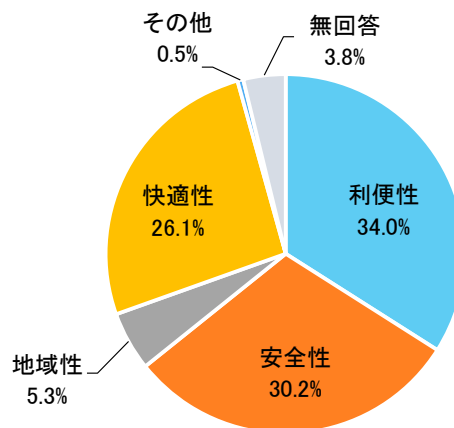
(8) 姫路駅周辺のまちづくり

問：姫路駅周辺では、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に取り組んでいます。そのための空間づくりにおいて、特に重視すべき事項は何ですか。(〇は1つ)

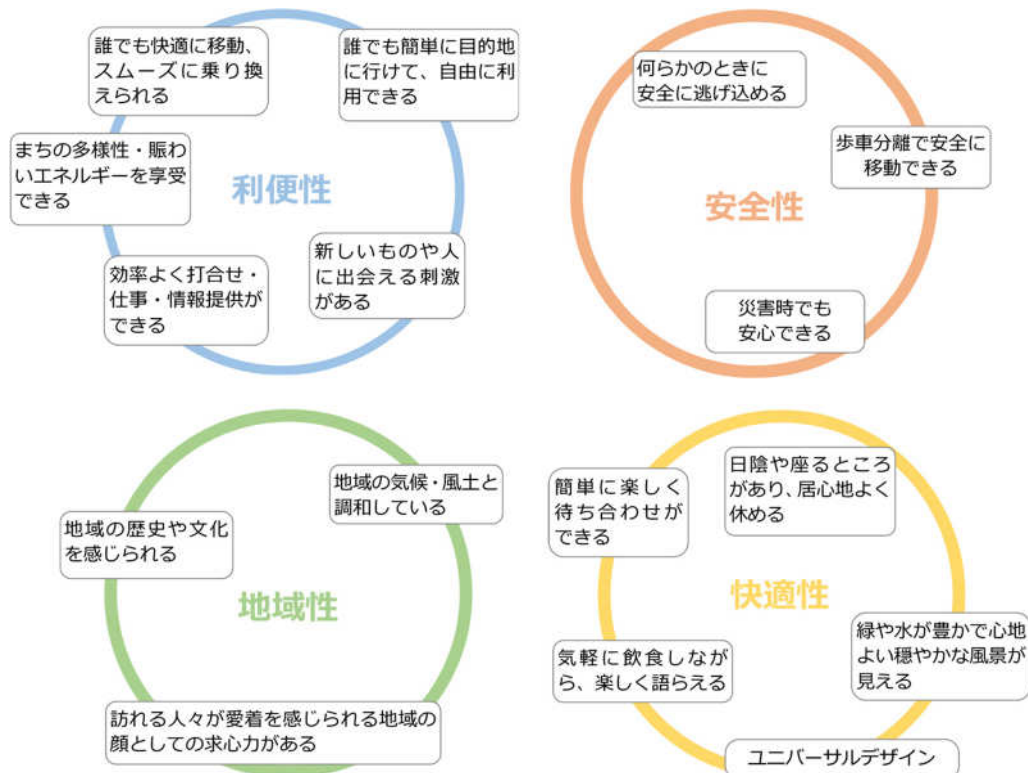
ア 市全体

- ・姫路駅周辺の空間づくりにおいて、特に重視すべき事項については、「利便性」が34.0%と最も高く、次いで「安全性」が30.2%、「快適性」が26.1%、「地域性」が5.3%となっています。

図表 3.28 姫路駅周辺の空間づくりで重視すべき事項



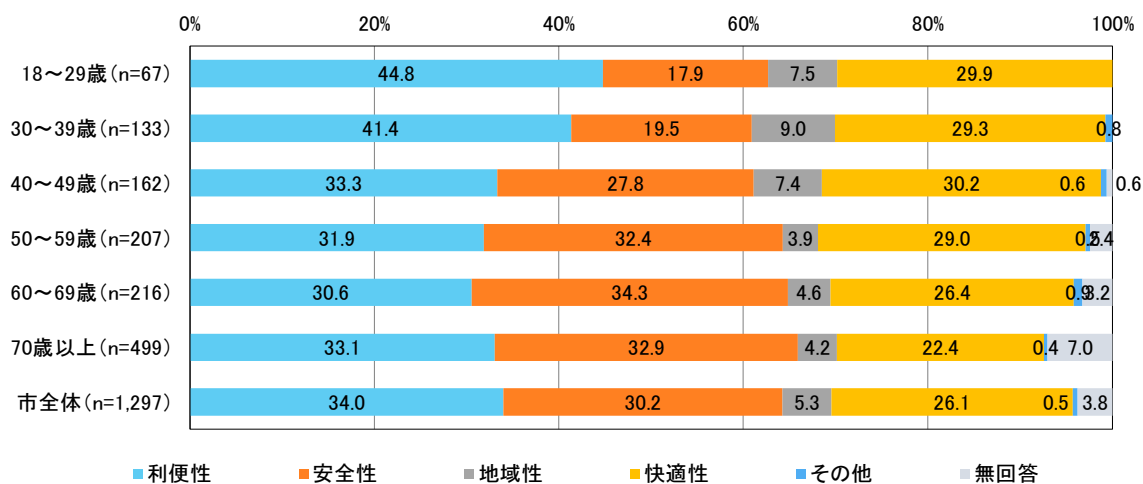
図表 3.29 姫路駅周辺における空間づくりのイメージ



イ 年齢別

- ・若い世代では「利便性」や「快適性」を重視する傾向にあり、50歳以上の世代は「安全性」を重視する傾向にあります。

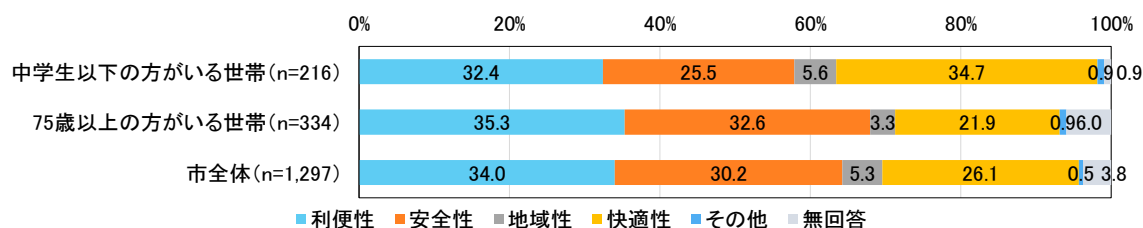
図表 3.30 年齢別にみた姫路駅周辺の空間づくりで重視すべき事項



ウ 家族構成別

- ・中学生以下の方がいる世帯では「快適性」を重視する人が 34.7%であり、市全体の割合を 8.6 ポイント上回っています。75歳以上の方がいる世帯では「利便性」を重視する人が最も多くなっています。

図表 3.31 家族構成別にみた姫路駅周辺の空間づくりで重視すべき事項



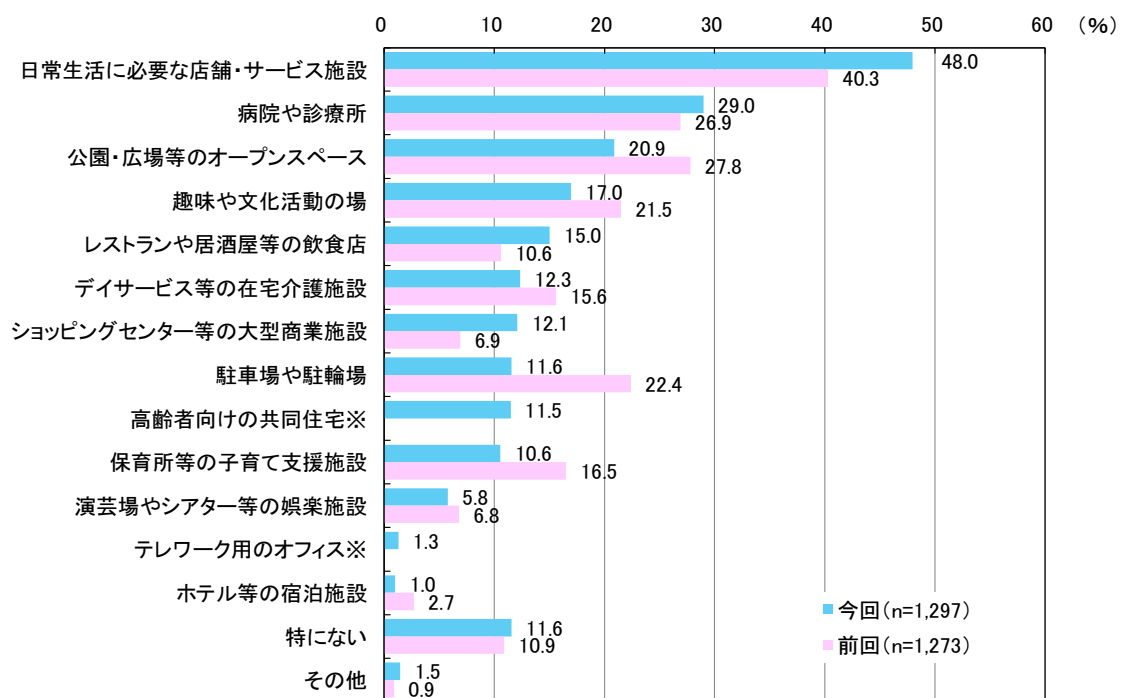
(9) 地域の拠点づくり

問：お住まいの地域の拠点（鉄道駅や支所・地域事務所の周辺）にはどのような施設が必要
 と思いますか。（〇は3つまで）

ア 市全体

- ・「日常生活に必要な店舗・サービス施設」が48.0%と最も高く、次いで「病院や診療所」が29.0%、「公園・広場等のオープンスペース」が20.9%となっています。
- ・前回（平成24年度実施）調査と比較すると、上位3項目は同様の結果となっていますが、「日常生活に必要な店舗・サービス施設」が7.7ポイント増加しています。

図表 3.32 地域の拠点づくり



注：※印の選択肢は今回調査で追加したもの

イ 地域別

- すべての地域で「日常に必要な店舗・サービス施設」が最も高く、特に安富・夢前地域では7割前後を占めています。次いで高いのは、中部第一・香寺・安富地域では「公園・広場等のオープンスペース」、中部第二・網干・広畑・飾磨・灘・東部・北部・西部・家島・夢前地域では「病院や診療所」となっています。

図表 3.33 地域別にみた地域の拠点づくり

	回答者数	日常生活に必要な店舗・サービス施設	レストランや居酒屋等の飲食店	保育所等の子育て支援施設	デイサービス等の在宅介護施設	病院や診療所	高齢者向けの共同住宅	ショッピングセンター等の大型商業施設	演芸場やシアター等の娯楽施設	ホテル等の宿泊施設	駐車場や駐輪場	公園・広場等のオープンスペース	趣味や文化活動の場	テレワーク用のオフィス	特にない	その他
中部第一	125人	45	19	16	12	20	10	11	7	2	19	29	21	2	23	4
	100%	36.0	15.2	12.8	9.6	16.0	8.0	8.8	5.6	1.6	15.2	23.2	16.8	1.6	18.4	3.2
中部第二	163人	70	22	16	17	39	14	25	14	0	24	33	29	5	21	2
	100%	42.9	13.5	9.8	10.4	23.9	8.6	15.3	8.6	0.0	14.7	20.2	17.8	3.1	12.9	1.2
網干	113人	59	22	13	19	46	10	9	8	2	10	22	19	0	9	0
	100%	52.2	19.5	11.5	16.8	40.7	8.8	8.0	7.1	1.8	8.8	19.5	16.8	0.0	8.0	0.0
広畑	117人	49	17	16	16	30	9	11	12	0	17	25	19	2	21	0
	100%	41.9	14.5	13.7	13.7	25.6	7.7	9.4	10.3	0.0	14.5	21.4	16.2	1.7	17.9	0.0
飾磨	127人	57	15	22	11	30	15	10	4	2	21	28	20	3	15	0
	100%	44.9	11.8	17.3	8.7	23.6	11.8	7.9	3.1	1.6	16.5	22.0	15.7	2.4	11.8	0.0
灘	85人	44	20	6	13	22	9	17	2	1	17	18	8	0	7	4
	100%	51.8	23.5	7.1	15.3	25.9	10.6	20.0	2.4	1.2	20.0	21.2	9.4	0.0	8.2	4.7
東部	96人	51	11	14	13	27	10	11	7	0	13	16	16	2	11	1
	100%	53.1	11.5	14.6	13.5	28.1	10.4	11.5	7.3	0.0	13.5	16.7	16.7	2.1	11.5	1.0
北部	105人	52	13	9	11	40	16	14	1	1	7	25	20	3	11	4
	100%	49.5	12.4	8.6	10.5	38.1	15.2	13.3	1.0	1.0	6.7	23.8	19.0	2.9	10.5	3.8
西部	109人	51	17	9	7	31	10	14	8	1	8	20	26	0	13	2
	100%	46.8	15.6	8.3	6.4	28.4	9.2	12.8	7.3	0.9	7.3	18.3	23.9	0.0	11.9	1.8
香寺	73人	31	13	6	10	16	13	8	2	0	8	19	17	0	8	0
	100%	42.5	17.8	8.2	13.7	21.9	17.8	11.0	2.7	0.0	11.0	26.0	23.3	0.0	11.0	0.0
家島	38人	18	10	3	9	13	11	5	1	3	0	2	6	0	4	0
	100%	47.4	26.3	7.9	23.7	34.2	28.9	13.2	2.6	7.9	0.0	5.3	15.8	0.0	10.5	0.0
夢前	75人	54	9	3	14	43	11	14	3	1	1	14	11	0	2	1
	100%	72.0	12.0	4.0	18.7	57.3	14.7	18.7	4.0	1.3	1.3	18.7	14.7	0.0	2.7	1.3
安富	45人	31	7	2	7	9	7	5	1	0	2	12	5	0	3	1
	100%	68.9	15.6	4.4	15.6	20.0	15.6	11.1	2.2	0.0	4.4	26.7	11.1	0.0	6.7	2.2
市全体	1,297人	622	195	137	160	376	149	157	75	13	150	271	220	17	150	19
	100%	48.0	15.0	10.6	12.3	29.0	11.5	12.1	5.8	1.0	11.6	20.9	17.0	1.3	11.6	1.5

(10) 道路・公園

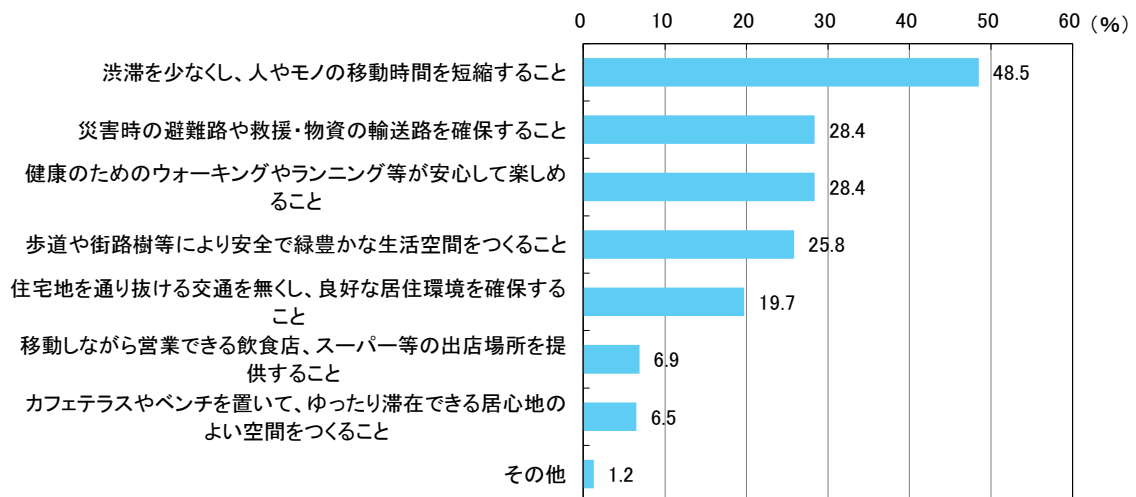
(道路)

問：道路に期待する役割は何ですか。(〇は2つまで)

ア 市全体

- ・「渋滞を少なくし、人やモノの移動時間を短縮すること」が48.5%と最も高く、次いで、「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」と「健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること」がそれぞれ28.4%、「歩道や街路樹等により安全で緑豊かな生活空間をつくること」が25.8%となっています。

図表 3.34 道路に期待する役割



イ 年齢別

- ・すべての世代で「渋滞をなくし、人やモノの移動時間を短縮すること」が最も高く、特に50歳未満の世代では6割以上を占めています。
- ・次いで高いのは、60歳未満の世代では「歩道や街路樹等により、安全で緑豊かな生活空間をつくること」や「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」、60歳以上の世代では「健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること」となっています。

図表 3.35 年齢別にみた道路に期待する役割

	回答者数	渋滞を少なくし、人やモノの移動時間を短縮すること	災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること	歩道や街路樹等により、安全で緑豊かな生活空間をつくること	住宅地を通り抜ける交通を無くし、良好な居住環境を確保すること	カフェテラスやベンチを置いて、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること	健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること	移動しながら営業できる飲食店、スーパー等の出店場所を提供すること	その他
18～29 歳	67 人 100%	50 74.6	12 17.9	21 31.3	13 19.4	1 1.5	9 13.4	3 4.5	1 1.5
30～39 歳	133 人 100%	84 63.2	39 29.3	31 23.3	32 24.1	7 5.3	24 18.0	6 4.5	2 1.5
40～49 歳	162 人 100%	102 63.0	50 30.9	40 24.7	30 18.5	6 3.7	39 24.1	7 4.3	3 1.9
50～59 歳	207 人 100%	117 56.5	60 29.0	64 30.9	35 16.9	4 1.9	63 30.4	8 3.9	1 0.5
60～69 歳	216 人 100%	107 49.5	58 26.9	54 25.0	43 19.9	14 6.5	75 34.7	16 7.4	2 0.9
70 歳以上	499 人 100%	163 32.7	146 29.3	122 24.4	98 19.6	52 10.4	154 30.9	47 9.4	7 1.4
市全体	1,297 人 100%	629 48.5	368 28.4	335 25.8	256 19.7	84 6.5	368 28.4	89 6.9	16 1.2

ウ 家族構成別

- ・中学生以下の方がいる世帯、75 歳以上の方がいる世帯ともに「渋滞を少なくし、人やモノの移動時間を短縮すること」が最も高く、特に中学生以下の方がいる世帯では6割以上を占めています。次いで高いのは、中学生以下の方がいる世帯が「歩道や街路樹等により、安全で緑豊かな生活空間をつくること」、75 歳以上の方がいる世帯が「健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること」となっています。

図表 3.36 家族構成別にみた道路に期待する役割

	回答者数	渋滞を少なくし、人やモノの移動時間を短縮すること	災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること	歩道や街路樹等により、安全で緑豊かな生活空間をつくること	住宅地を通り抜ける交通を無くし、良好な居住環境を確保すること	カフェテラスやベンチを置いて、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること	健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること	移動しながら営業できる飲食店、スーパー等の出店場所を提供すること	その他
中学生以下の方がいる世帯	216 人 100%	137 63.4	56 25.9	58 26.9	52 24.1	9 4.2	52 24.1	9 4.2	4 1.9
75 歳以上の方がいる世帯	334 人 100%	123 36.8	105 31.4	92 27.5	68 20.4	24 7.2	112 33.5	28 8.4	3 0.9
市全体	1,297 人 100%	629 48.5	368 28.4	335 25.8	256 19.7	84 6.5	368 28.4	89 6.9	16 1.2

エ 地域別

- ・都市計画区域内では「渋滞をなくし、人やモノの移動時間を短縮すること」が最も高くなっています。中部第一地域では「渋滞をなくし、人やモノの移動時間を短縮すること」に加えて、「歩道や街路樹等により、安全で緑豊かな生活空間をつくること」が最も高くなっています。
- ・家島・夢前・安富地域では「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」が最も高くなっています。「災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること」は臨海部の網干・広畑・飾磨・灘地域においても比較的高く3割前後を占めています。

図表 3.37 地域別にみた道路に期待する役割

	回答者数	渋滞を少なくし、人やモノの移動時間を短縮すること	災害時の避難路や救援・物資の輸送路を確保すること	歩道や街路樹等により、安全で緑豊かな生活空間をつくること	住宅地を通り抜ける交通を無くし、良好な居住環境を確保すること	カフェテラスやベンチを置いて、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること	健康のためのウォーキングやランニング等が安心して楽しめること	移動しながら営業できる飲食店、スーパ―等の出店場所を提供すること	その他
中部第一	125人	50	29	50	23	5	39	3	3
	100%	40.0	23.2	40.0	18.4	4.0	31.2	2.4	2.4
中部第二	163人	86	33	51	30	10	54	9	3
	100%	52.8	20.2	31.3	18.4	6.1	33.1	5.5	1.8
網干	113人	58	34	23	31	9	32	12	0
	100%	51.3	30.1	20.4	27.4	8.0	28.3	10.6	0.0
広畑	117人	73	34	26	21	7	24	5	1
	100%	62.4	29.1	22.2	17.9	6.0	20.5	4.3	0.9
飾磨	127人	67	41	28	39	8	33	1	1
	100%	52.8	32.3	22.0	30.7	6.3	26.0	0.8	0.8
灘	85人	42	27	24	14	4	24	7	0
	100%	49.4	31.8	28.2	16.5	4.7	28.2	8.2	0.0
東部	96人	53	25	21	17	4	33	7	1
	100%	55.2	26.0	21.9	17.7	4.2	34.4	7.3	1.0
北部	105人	52	28	29	21	8	30	5	0
	100%	49.5	26.7	27.6	20.0	7.6	28.6	4.8	0.0
西部	109人	58	29	23	23	5	32	9	1
	100%	53.2	26.6	21.1	21.1	4.6	29.4	8.3	0.9
香寺	73人	40	17	20	12	8	18	3	2
	100%	54.8	23.3	27.4	16.4	11.0	24.7	4.1	2.7
家島	38人	4	14	8	3	8	11	6	2
	100%	10.5	36.8	21.1	7.9	21.1	28.9	15.8	5.3
夢前	75人	25	27	18	10	4	17	16	1
	100%	33.3	36.0	24.0	13.3	5.3	22.7	21.3	1.3
安富	45人	10	24	8	7	2	14	4	1
	100%	22.2	53.3	17.8	15.6	4.4	31.1	8.9	2.2
市全体	1,297人	629	368	335	256	84	368	89	16
	100%	48.5	28.4	25.8	19.7	6.5	28.4	6.9	1.2

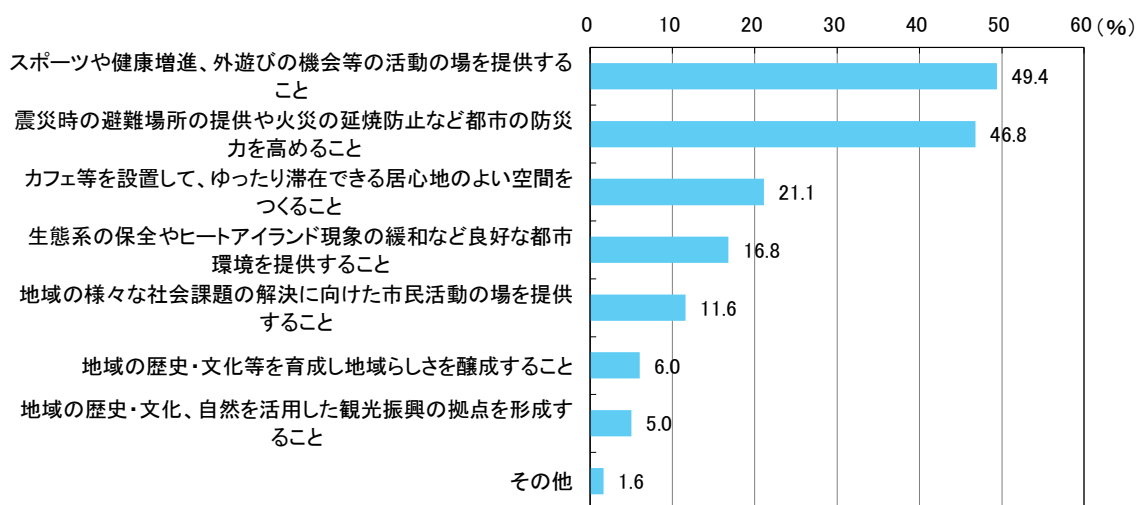
(公園)

問：公園に期待する役割は何ですか。(〇は2つまで)

ア 市全体

- ・「スポーツや健康増進、外遊びの機会等の活動の場を提供すること」が49.4%と最も多く、次いで「震災時の避難場所の提供や火災の延焼防止など都市の防災力を高めること」が46.8%、「カフェ等を設置して、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること」が21.1%となっています。

図表 3.38 公園に期待する役割



イ 年齢別

- ・いずれの世代でも「スポーツや健康増進、外遊びをする機会等の活動の場を提供すること」「災害時の避難場所の提供や火災延焼防止など都市の防災力を高めること」が上位を占めており、特に50歳未満の世代では「スポーツや健康増進、外遊びをする機会等の活動の場を提供すること」が6割以上を占めています。

図表 3.39 年齢別にみた公園に期待する役割

	回答者数	生態系の保全やヒートアイランド現象の緩和など良好な都市環境を提供すること	震災時の避難場所の提供や火災の延焼防止など都市の防災力を高めること	スポーツや健康増進、外遊びの機会等の活動の場を提供すること	地域の様々な社会課題の解決に向けた市民活動の場を提供すること	カフェ等を設置して、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること	地域の歴史・文化等を育成し地域らしさを醸成すること	地域の歴史・文化、自然を活用した観光振興の拠点を形成すること	その他
18～29 歳	67 人	6	15	43	11	14	3	5	1
	100%	9.0	22.4	64.2	16.4	20.9	4.5	7.5	1.5
30～39 歳	133 人	19	51	92	10	27	5	5	4
	100%	14.3	38.3	69.2	7.5	20.3	3.8	3.8	3.0
40～49 歳	162 人	28	67	106	23	27	14	8	3
	100%	17.3	41.4	65.4	14.2	16.7	8.6	4.9	1.9
50～59 歳	207 人	48	105	95	16	46	14	12	1
	100%	23.2	50.7	45.9	7.7	22.2	6.8	5.8	0.5
60～69 歳	216 人	38	108	107	26	49	15	5	1
	100%	17.6	50.0	49.5	12.0	22.7	6.9	2.3	0.5
70 歳以上	499 人	76	254	194	63	107	27	29	11
	100%	15.2	50.9	38.9	12.6	21.4	5.4	5.8	2.2
市全体	1,297 人	218	607	641	150	274	78	65	21
	100%	16.8	46.8	49.4	11.6	21.1	6.0	5.0	1.6

ウ 家族構成別

- ・中学生以下の方がいる世帯では「スポーツや健康増進、外遊びをする機会等の活動の場を提供すること」が最も高く、7割以上を占めています。
- ・75歳以上の方がいる世帯では「災害時の避難場所の提供や火災の延焼防止等の都市の防災力を高めること」が最も高く、5割以上を占めています。

図表 3.40 家族構成別にみた公園に期待する役割

	回答者数	生態系の保全やヒートアイランド現象の緩和など良好な都市環境を提供すること	震災時の避難場所の提供や火災の延焼防止など都市の防災力を高めること	スポーツや健康増進、外遊びの機会等の活動の場を提供すること	地域の様々な社会課題の解決に向けた市民活動の場を提供すること	カフェ等を設置して、ゆったり滞在できる居心地のよい空間をつくること	地域の歴史・文化等を育成し地域らしさを醸成すること	地域の歴史・文化、自然を活用した観光振興の拠点を形成すること	その他
中学生以下の方がいる世帯	216 人	34	86	155	15	38	13	11	5
	100%	15.7	39.8	71.8	6.9	17.6	6.0	5.1	2.3
75歳以上の方がいる世帯	334 人	46	183	145	45	67	25	17	3
	100%	13.8	54.8	43.4	13.5	20.1	7.5	5.1	0.9
市全体	1,297 人	218	607	641	150	274	78	65	21
	100%	16.8	46.8	49.4	11.6	21.1	6.0	5.0	1.6

エ 地域別

- ・いずれの地域でも「スポーツや健康増進、外遊びをする機会等の活動の場を提供すること」「災害時の避難場所の提供や火災延焼防止など都市の防災力を高めること」が上位を占めており、中部第一・中部第二・網干・飾磨・東部・香寺・安富地域では「スポーツや健康増進、外遊びをする機会などの活動の場を提供すること」が、広畑・灘・北部・西部・家島地域では「災害時の避難場所の提供や火災の延焼防止などの都市の防災力を高めること」が、夢前地域ではこれらの両方が最も高くなっています。

図表 3.41 地域別にみた公園に期待する役割

	回答者数	生態系の保全やヒートアイランド現象の緩和など良好な都市環境を提供すること	震災時の避難場所の提供や火災の延焼防止など都市の防災力を高めること	スポーツや健康増進、外遊びの機会等の活動の場を提供すること	地域のような社会課題の解決に向けた市民活動の場を提供すること	滞在できる居心地のよい空間をつくること	地域の歴史・文化等を育成し地域らしさを醸成すること	地域の歴史・文化、自然を活用した観光振興の拠点を形成すること	その他
中部第一	125人	32	47	49	11	29	11	6	3
	100%	25.6	37.6	39.2	8.8	23.2	8.8	4.8	2.4
中部第二	163人	21	75	95	15	47	10	6	1
	100%	12.9	46.0	58.3	9.2	28.8	6.1	3.7	0.6
網干	113人	13	57	64	13	20	6	4	2
	100%	11.5	50.4	56.6	11.5	17.7	5.3	3.5	1.8
広畑	117人	18	62	59	11	28	5	6	2
	100%	15.4	53.0	50.4	9.4	23.9	4.3	5.1	1.7
飾磨	127人	19	70	71	13	20	6	5	1
	100%	15.0	55.1	55.9	10.2	15.7	4.7	3.9	0.8
灘	85人	14	41	39	13	19	7	9	1
	100%	16.5	48.2	45.9	15.3	22.4	8.2	10.6	1.2
東部	96人	13	45	53	11	22	10	2	0
	100%	13.5	46.9	55.2	11.5	22.9	10.4	2.1	0.0
北部	105人	16	53	48	10	20	8	7	3
	100%	15.2	50.5	45.7	9.5	19.0	7.6	6.7	2.9
西部	109人	33	52	47	15	20	2	4	2
	100%	30.3	47.7	43.1	13.8	18.3	1.8	3.7	1.8
香寺	73人	11	25	37	12	14	5	2	0
	100%	15.1	34.2	50.7	16.4	19.2	6.8	2.7	0.0
家島	38人	6	17	16	4	8	1	2	2
	100%	15.8	44.7	42.1	10.5	21.1	2.6	5.3	5.3
夢前	75人	11	34	34	13	12	5	6	2
	100%	14.7	45.3	45.3	17.3	16.0	6.7	8.0	2.7
安富	45人	4	18	21	7	8	1	2	2
	100%	8.9	40.0	46.7	15.6	17.8	2.2	4.4	4.4
市全体	1,297人	218	607	641	150	274	78	65	21
	100%	16.8	46.8	49.4	11.6	21.1	6.0	5.0	1.6

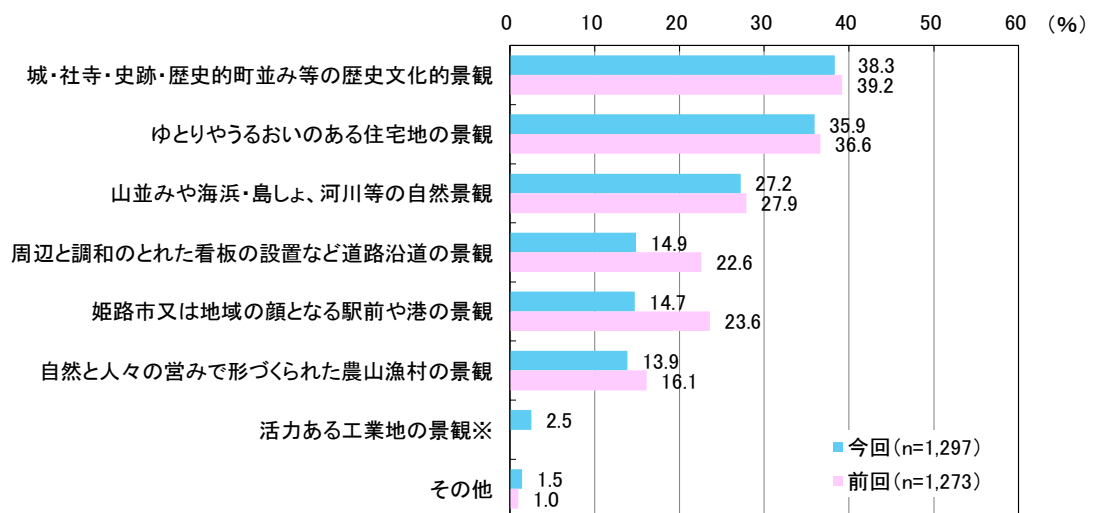
(11) 景観

問：お住まいの地域にふさわしい景観（風景・景色）を形成するために、大切にしたい景観は何ですか。（〇は2つまで）

ア 市全体

- ・「城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観」が 38.3%と最も高く、次いで「ゆとりやうるおいのある住宅地の景観」が 35.9%、「山並みや海浜・島しょ、河川等の自然景観」が 27.2%となっています。
- ・前回（平成 24 年度実施）調査と比較すると、上位 3 項目は同様の結果となっています。

図表 3.42 大切にしたい景観



注：※印の選択肢は今回調査で追加したもの

イ 年齢別

- ・60歳未満の世代では「城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観」が最も高く、60歳以上の世代では「ゆとりやうるおいのある住宅地の景観」が最も高くなっています。

図表 3.43 年齢別にみた大切にしたい景観

	回答者数	城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観	山並みや海浜・島しょ、河川等の自然景観	自然と人々の営みで形づくられた農山漁村の景観	ゆとりやうるおいのある住宅地の景観	姫路市または地域の顔となる駅前や港の景観	活力ある工業地の景観	周辺と調和のとれた看板の設置など道路沿道の景観	その他
18～29歳	67人	33	18	9	16	13	5	7	2
	100%	49.3	26.9	13.4	23.9	19.4	7.5	10.4	3.0
30～39歳	133人	59	44	17	38	19	6	14	1
	100%	44.4	33.1	12.8	28.6	14.3	4.5	10.5	0.8
40～49歳	162人	64	54	18	57	26	4	19	4
	100%	39.5	33.3	11.1	35.2	16.0	2.5	11.7	2.5
50～59歳	207人	93	62	20	78	32	1	34	4
	100%	44.9	30.0	9.7	37.7	15.5	0.5	16.4	1.9
60～69歳	216人	79	58	32	82	40	1	41	2
	100%	36.6	26.9	14.8	38.0	18.5	0.5	19.0	0.9
70歳以上	499人	162	114	80	192	61	16	76	5
	100%	32.5	22.8	16.0	38.5	12.2	3.2	15.2	1.0
市全体	1,297人	497	353	180	466	191	33	193	19
	100%	38.3	27.2	13.9	35.9	14.7	2.5	14.9	1.5

ウ 地域別

- 中部第一・中部第二・飾磨・東部地域では「城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観」が最も高くなっています。特に、中部第一地域では5割以上を占めています。
- 広畑・灘・西部・家島・夢前・安富地域では「山並みや海浜・島しょ、河川等の自然景観」が最も高くなっています。西部地域では、「城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観」も最も高くなっています。
- 網干・北部・香寺地域では「ゆとりやうるおいのある住宅地の景観」が最も高くなっています。香寺地域では、「城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観」も最も高くなっています。

図表 3.44 地域別にみた大切にしたい景観

	回答者数	城・社寺・史跡・歴史的町並み等の歴史文化的景観	山並みや海浜・島しょ、河川等の自然景観	自然と人々の営みで形づくられた農山漁村の景観	ゆとりやうるおいのある住宅地の景観	姫路市または地域の顔となる駅前や港の景観	活力ある工業地の景観	周辺と調和のとれた看板の設置など道路沿道の景観	その他
中部第一	125人	70	10	3	52	26	1	16	3
	100%	56.0	8.0	2.4	41.6	20.8	0.8	12.8	2.4
中部第二	163人	70	28	9	69	36	5	27	4
	100%	42.9	17.2	5.5	42.3	22.1	3.1	16.6	2.5
網干	113人	40	30	12	49	14	3	17	0
	100%	35.4	26.5	10.6	43.4	12.4	2.7	15.0	0.0
広畑	117人	40	43	11	31	22	10	20	3
	100%	34.2	36.8	9.4	26.5	18.8	8.5	17.1	2.6
飾磨	127人	48	27	5	45	37	4	23	0
	100%	37.8	21.3	3.9	35.4	29.1	3.1	18.1	0.0
灘	85人	22	37	12	35	8	3	5	1
	100%	25.9	43.5	14.1	41.2	9.4	3.5	5.9	1.2
東部	96人	43	24	13	42	10	0	17	0
	100%	44.8	25.0	13.5	43.8	10.4	0.0	17.7	0.0
北部	105人	43	15	17	45	11	2	17	3
	100%	41.0	14.3	16.2	42.9	10.5	1.9	16.2	2.9
西部	109人	42	42	22	33	9	0	20	0
	100%	38.5	38.5	20.2	30.3	8.3	0.0	18.3	0.0
香寺	73人	25	22	19	25	5	1	7	0
	100%	34.2	30.1	26.0	34.2	6.8	1.4	9.6	0.0
家島	38人	5	25	12	4	6	0	2	2
	100%	13.2	65.8	31.6	10.5	15.8	0.0	5.3	5.3
夢前	75人	24	29	23	21	3	1	14	1
	100%	32.0	38.7	30.7	28.0	4.0	1.3	18.7	1.3
安富	45人	11	16	15	12	0	2	5	1
	100%	24.4	35.6	33.3	26.7	0.0	4.4	11.1	2.2
市全体	1,297人	497	353	180	466	191	33	193	19
	100%	38.3	27.2	13.9	35.9	14.7	2.5	14.9	1.5

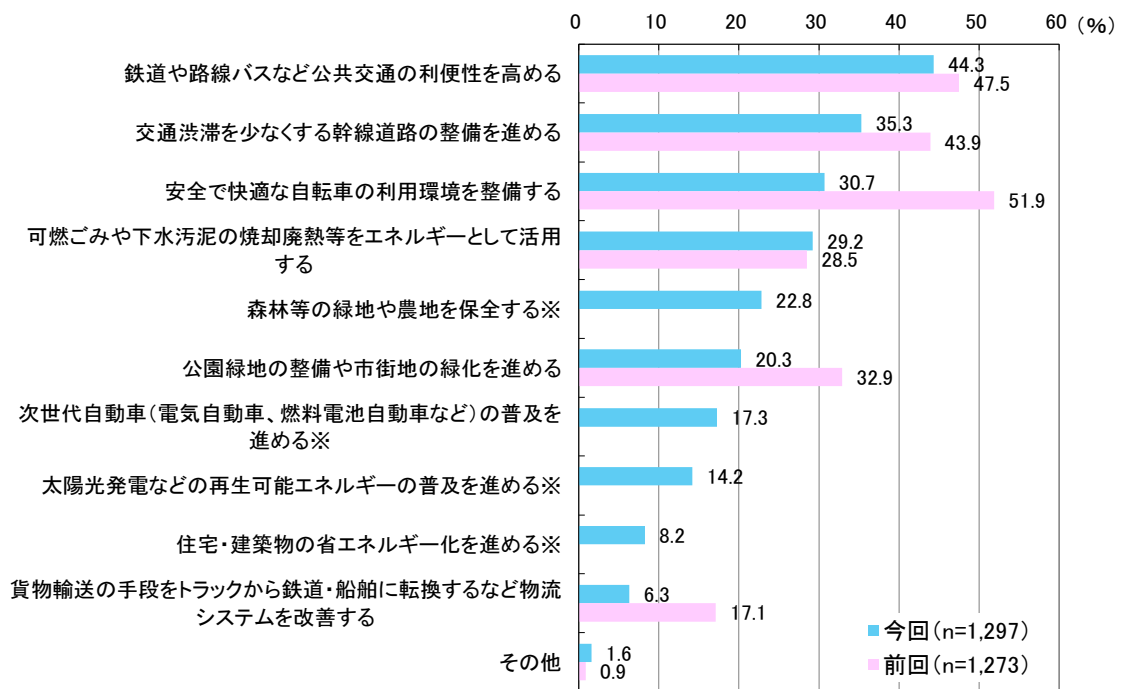
(12) 環境・エネルギー

問：脱炭素社会に向けたまちづくりを進めるために、重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

ア 市全体

- ・「鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める」が44.3%と最も高く、次いで「交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める」が35.3%、「安全で快適な自転車の利用環境を整備する」が30.7%、「可燃ごみや下水汚泥の焼却廃熱等をエネルギーとして活用する」が29.2%となっています。
- ・前回と比較すると、上位3項目は同様の結果となっていますが、「安全で快適な自転車の利用環境を整備する」が20ポイント以上減少しています。

図表 3.45 脱炭素社会に向けたまちづくりの取組



注：※印の選択肢は今回調査で追加したもの

イ 年齢別

- ・いずれの世代でも「鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める」「交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める」が上位を占めています。
- ・特に30歳未満や40歳以上の世代で「鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める」が、30代では「交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める」が最も高く、それぞれ4割以上を占めています。また、30代では「安全で快適な自転車の利用環境を整備する」が比較的高くなっています。

図表 3.46 年齢別にみた脱炭素社会に向けたまちづくりの取組

	回答者数	安全で快適な自転車の利用環境を整備する	鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める	貨物輸送の手段をトラックから鉄道・船舶に転換するなど物流システムを改善する	交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める	公園緑地の整備や市街地の緑化を進める	可燃ごみや下水汚泥の焼却廃熱等をエネルギーとして活用する	住宅・建築物の省エネルギーを進める	太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及を進める	次世代自動車(電気自動車、燃料電池自動車など)の普及を進める	森林等の緑地や農地を保全する	その他
18～29歳	67人	23	28	4	25	15	14	7	10	12	11	2
	100%	34.3	41.8	6.0	37.3	22.4	20.9	10.4	14.9	17.9	16.4	3.0
30～39歳	133人	48	48	8	56	40	25	9	18	21	27	5
	100%	36.1	36.1	6.0	42.1	30.1	18.8	6.8	13.5	15.8	20.3	3.8
40～49歳	162人	52	80	9	64	28	51	11	14	32	32	4
	100%	32.1	49.4	5.6	39.5	17.3	31.5	6.8	8.6	19.8	19.8	2.5
50～59歳	207人	57	100	12	79	51	56	20	35	33	49	5
	100%	27.5	48.3	5.8	38.2	24.6	27.1	9.7	16.9	15.9	23.7	2.4
60～69歳	216人	63	98	18	78	36	69	20	27	39	57	1
	100%	29.2	45.4	8.3	36.1	16.7	31.9	9.3	12.5	18.1	26.4	0.5
70歳以上	499人	153	213	29	151	91	160	38	79	85	117	4
	100%	30.7	42.7	5.8	30.3	18.2	32.1	7.6	15.8	17.0	23.4	0.8
市全体	1,297人	398	575	82	458	263	379	107	184	224	296	21
	100%	30.7	44.3	6.3	35.3	20.3	29.2	8.2	14.2	17.3	22.8	1.6

ウ 地域別

- ・いずれの地域でも「鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める」「交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める」「安全で快適な自転車の利用環境を整備する」が上位を占めていますが、家島地域では「可燃ごみや下水汚泥の焼却廃熱等をエネルギーとして活用する」が、安富地域では「森林等の緑地や農地を保全する」が最も高くなっています。

図表 3.47 地域別にみた脱炭素社会に向けたまちづくりの取組

	回答者数	安全で快適な自転車の利用環境を整備する	鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を高める	鉄道・船舶に転換するなど物流システムを改善する	貨物輸送の手段をトラックから	交通渋滞を少なくする幹線道路の整備を進める	公園緑地の整備や市街地の緑化を進める	可燃ごみや下水汚泥の焼却廃熱等をエネルギーとして活用する	住宅・建築物の省エネルギー化を進める	太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及を進める	次世代自動車(電気自動車、燃料電池自動車など)の普及を進める	森林等の緑地や農地を保全する	その他
中部第一	125人	40	42	6	34	40	33	14	21	26	27	3	
	100%	32.0	33.6	4.8	27.2	32.0	26.4	11.2	16.8	20.8	21.6	2.4	
中部第二	163人	70	74	12	50	37	50	14	30	30	24	2	
	100%	42.9	45.4	7.4	30.7	22.7	30.7	8.6	18.4	18.4	14.7	1.2	
網干	113人	37	54	10	46	30	29	7	17	16	21	0	
	100%	32.7	47.8	8.8	40.7	26.5	25.7	6.2	15.0	14.2	18.6	0.0	
広畑	117人	31	52	5	55	26	36	12	15	18	23	2	
	100%	26.5	44.4	4.3	47.0	22.2	30.8	10.3	12.8	15.4	19.7	1.7	
飾磨	127人	41	54	12	53	38	31	9	11	19	22	2	
	100%	32.3	42.5	9.4	41.7	29.9	24.4	7.1	8.7	15.0	17.3	1.6	
灘	85人	31	35	6	30	17	23	6	10	19	16	0	
	100%	36.5	41.2	7.1	35.3	20.0	27.1	7.1	11.8	22.4	18.8	0.0	
東部	96人	31	46	8	47	13	31	8	5	17	22	1	
	100%	32.3	47.9	8.3	49.0	13.5	32.3	8.3	5.2	17.7	22.9	1.0	
北部	105人	35	50	9	33	18	27	13	19	20	19	1	
	100%	33.3	47.6	8.6	31.4	17.1	25.7	12.4	18.1	19.0	18.1	1.0	
西部	109人	34	53	5	43	9	34	7	15	14	33	3	
	100%	31.2	48.6	4.6	39.4	8.3	31.2	6.4	13.8	12.8	30.3	2.8	
香寺	73人	15	33	0	29	10	23	6	12	14	17	3	
	100%	20.5	45.2	0.0	39.7	13.7	31.5	8.2	16.4	19.2	23.3	4.1	
家島	38人	4	13	3	4	9	16	2	8	5	11	2	
	100%	10.5	34.2	7.9	10.5	23.7	42.1	5.3	21.1	13.2	28.9	5.3	
夢前	75人	14	40	2	18	8	25	4	12	16	28	2	
	100%	18.7	53.3	2.7	24.0	10.7	33.3	5.3	16.0	21.3	37.3	2.7	
安富	45人	8	18	3	9	3	15	3	6	6	26	0	
	100%	17.8	40.0	6.7	20.0	6.7	33.3	6.7	13.3	13.3	57.8	0.0	
市全体	1,297人	398	575	82	458	263	379	107	184	224	296	21	
	100%	30.7	44.3	6.3	35.3	20.3	29.2	8.2	14.2	17.3	22.8	1.6	

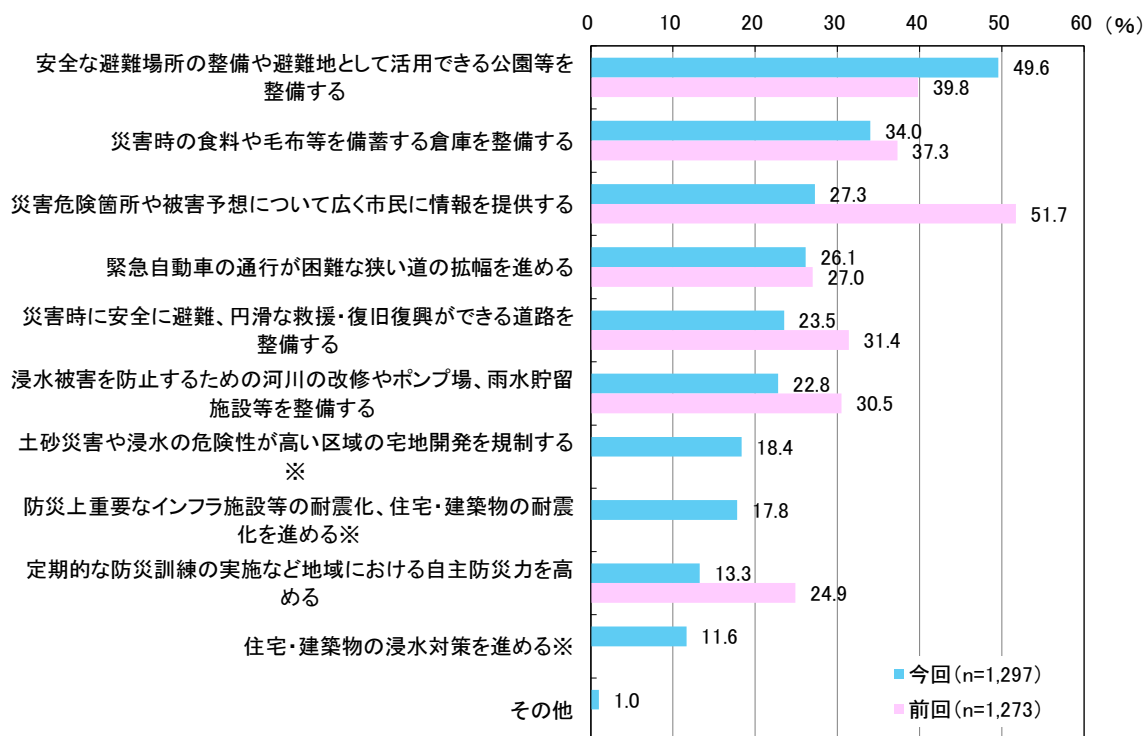
(13) 防災

問：災害に強いまちづくりを進めるために、重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

ア 市全体

- ・「安全な避難場所の整備や避難地として活用できる公園等を整備する」が49.6%と最も高く、次いで「災害時の食料や毛布等を備蓄する倉庫を整備する」が34.0%、「災害危険箇所や被害予想について広く市民に情報を提供する」が27.3%となっています。
- ・前回と比較すると、上位3項目は同様の結果となっていますが、「災害危険箇所や被害予想について広く市民に情報を提供する」が20ポイント以上減少しています。

図表 3.48 災害に強いまちづくりの取組



注：※印の選択肢は今回調査で追加したもの

イ 年齢別

- すべての世代で「安全な避難所の整備や避難地として活用できる公園等を整理する」が最も高く、次いで「災害時の食料や毛布等を備蓄する倉庫を整備する」となっています。

図表 3.49 年齢別にみた災害に強いまちづくりの取組

	回答者数	安全な避難場所の整備や避難地として活用できる公園等を整備する	災害時の食料や毛布等を備蓄する倉庫を整備する	災害時に安全に避難、円滑な救援・復旧復興ができる道路を整備する	緊急自動車の通行が困難な狭い道の拡幅を進める	防災上重要なインフラ施設等の耐震化、住宅・建築物の耐震化を進める	浸水被害を防止するための河川の改修やポンプ場、雨水貯留施設等を整備する	住宅・建築物の浸水対策を進める	土砂災害や浸水の危険性が高い区域の宅地開発を規制する	定期的な防災訓練の実施など地域における自主防災力を高める	災害危険箇所や被害予想について広く市民に情報を提供する	その他
18～29 歳	67 人	30	25	18	16	24	8	10	5	3	13	0
	100%	44.8	37.3	26.9	23.9	35.8	11.9	14.9	7.5	4.5	19.4	0.0
30～39 歳	133 人	57	55	35	39	32	32	19	14	16	29	1
	100%	42.9	41.4	26.3	29.3	24.1	24.1	14.3	10.5	12.0	21.8	0.8
40～49 歳	162 人	83	59	37	41	35	35	22	28	16	45	3
	100%	51.2	36.4	22.8	25.3	21.6	21.6	13.6	17.3	9.9	27.8	1.9
50～59 歳	207 人	117	65	60	46	31	49	27	39	28	51	2
	100%	56.5	31.4	29.0	22.2	15.0	23.7	13.0	18.8	13.5	24.6	1.0
60～69 歳	216 人	99	69	45	59	34	69	25	54	27	63	2
	100%	45.8	31.9	20.8	27.3	15.7	31.9	11.6	25.0	12.5	29.2	0.9
70 歳以上	499 人	251	165	104	134	71	99	46	96	82	150	5
	100%	50.3	33.1	20.8	26.9	14.2	19.8	9.2	19.2	16.4	30.1	1.0
市全体	1,297 人	643	441	305	339	231	296	151	238	172	354	13
	100%	49.6	34.0	23.5	26.1	17.8	22.8	11.6	18.4	13.3	27.3	1.0

ウ 地域別

- すべての地域で「安全な避難所の整備や避難地として活用できる公園等を整理する」が最も高くなっています。次いで高いのは、中部第一・網干・広畑・飾磨・北部・西部・夢前・安富地域では「災害時の食料や毛布等を備蓄する倉庫を整備する」、中部第二・香寺・家島地域では「災害危険箇所や被害予想について広く市民に情報を提供する」、灘・香寺地域では「緊急自動車の通行が困難な狭い道の拡幅を進める」となっています。

図表 3.50 地域別にみた災害に強いまちづくりの取組

	回答者数	安全な避難場所の整備や避難地として活用できる公園等を整備する	災害時の食料や毛布等を備蓄する倉庫を整備する	災害時に安全に避難、円滑な救援・復旧復興ができる道路を整備する	緊急自動車の通行が困難な狭い道の拡幅を進める	防災上重要なインフラ施設等の耐震化、住宅・建築物の耐震化を進める	浸水被害を防止するための河川の改修やポンプ場、雨水貯留施設等を整備する	住宅・建築物の浸水対策を進める	土砂災害や浸水の危険性が高い区域の宅地開発を規制する	定期的な防災訓練の実施など地域における自主防災力を高める	災害危険箇所や被害予想について広く市民に情報を提供する	その他
中部第一	125人	63	47	26	24	24	23	9	21	16	34	3
	100%	50.4	37.6	20.8	19.2	19.2	18.4	7.2	16.8	12.8	27.2	2.4
中部第二	163人	86	45	40	46	31	24	23	32	24	51	1
	100%	52.8	27.6	24.5	28.2	19.0	14.7	14.1	19.6	14.7	31.3	0.6
網干	113人	64	52	30	27	24	29	15	13	18	32	1
	100%	56.6	46.0	26.5	23.9	21.2	25.7	13.3	11.5	15.9	28.3	0.9
広畑	117人	55	42	30	29	28	35	10	24	9	34	1
	100%	47.0	35.9	25.6	24.8	23.9	29.9	8.5	20.5	7.7	29.1	0.9
飾磨	127人	63	39	26	30	26	36	14	16	18	32	0
	100%	49.6	30.7	20.5	23.6	20.5	28.3	11.0	12.6	14.2	25.2	0.0
灘	85人	45	19	16	27	13	23	18	11	6	24	1
	100%	52.9	22.4	18.8	31.8	15.3	27.1	21.2	12.9	7.1	28.2	1.2
東部	96人	50	38	28	28	17	21	7	15	19	21	0
	100%	52.1	39.6	29.2	29.2	17.7	21.9	7.3	15.6	19.8	21.9	0.0
北部	105人	56	32	21	31	20	26	12	19	12	31	0
	100%	53.3	30.5	20.0	29.5	19.0	24.8	11.4	18.1	11.4	29.5	0.0
西部	109人	58	44	28	29	17	26	9	27	15	23	1
	100%	53.2	40.4	25.7	26.6	15.6	23.9	8.3	24.8	13.8	21.1	0.9
香寺	73人	27	20	21	23	8	18	7	18	11	23	1
	100%	37.0	27.4	28.8	31.5	11.0	24.7	9.6	24.7	15.1	31.5	1.4
家島	38人	13	11	9	9	4	9	8	7	3	12	1
	100%	34.2	28.9	23.7	23.7	10.5	23.7	21.1	18.4	7.9	31.6	2.6
夢前	75人	33	24	15	20	9	14	7	19	10	19	3
	100%	44.0	32.0	20.0	26.7	12.0	18.7	9.3	25.3	13.3	25.3	4.0
安富	45人	19	17	9	8	5	8	8	13	11	12	0
	100%	42.2	37.8	20.0	17.8	11.1	17.8	17.8	28.9	24.4	26.7	0.0
市全体	1,297人	643	441	305	339	231	296	151	238	172	354	13
	100%	49.6	34.0	23.5	26.1	17.8	22.8	11.6	18.4	13.3	27.3	1.0

(14) 都市と農の共生

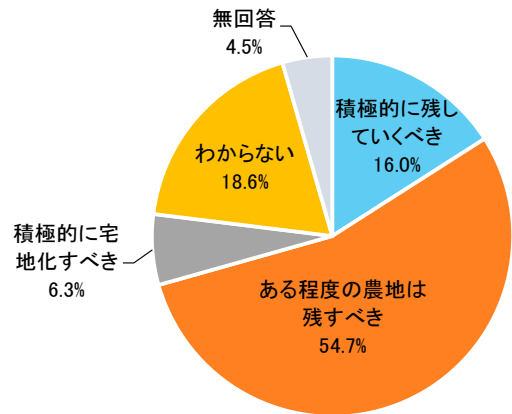
(市街化区域内農地のあり方)

問：市街化区域内農地のあり方について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

ア 市全体

- ・「ある程度の農地は残すべき」が54.7%と最も高く、「積極的に残していくべき」(16.0%)をあわせた約7割が市街化区域内農地を残すべきと考えています。
- ・一方で「積極的に宅地化すべき」は1割未満となっています。

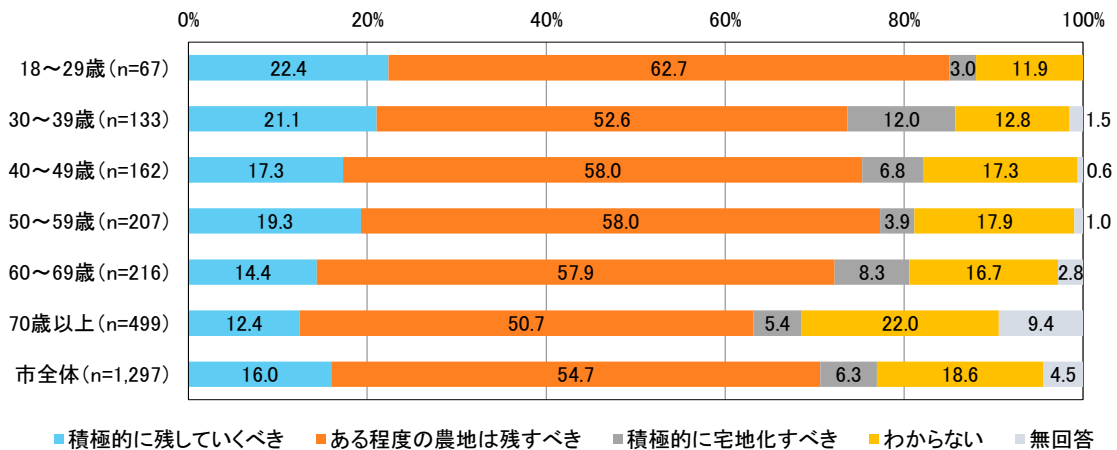
図表 3.51 市街化区域内農地のあり方



イ 年齢別

- ・すべての世代で「ある程度の農地は残すべき」が最も高くなっています。特に30歳未満の世代では、「ある程度の農地は残すべき」が6割以上を占めており、「積極的に残していくべき」(22.4%)をあわせた8割以上が市街化区域内農地を残すべきと考えています。

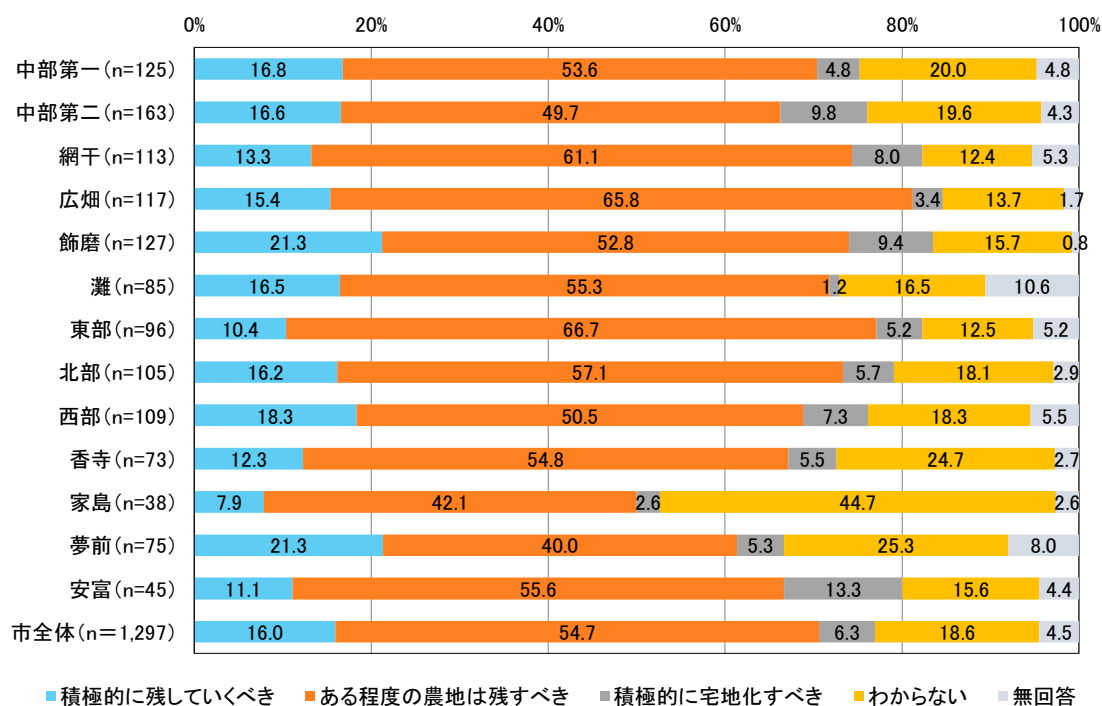
図表 3.52 年齢別にみた市街化区域内農地のあり方



ウ 地域別

- ・家島地域では「わからない」が最も高くなっていますが、その他の地域では「ある程度の農地は残すべき」が最も高くなっています。
- ・市街化区域が設定されている中部第一・網干・広畑・飾磨・灘・東部・北部地域において、「積極的に残していくべき」と「ある程度の農地は残すべき」をあわせた市街化区域内農地を残すべきと考えている人の割合が市全体を上回っており、特に広畑地域では8割以上を占めています。

図表 3.53 地域別にみた市街化区域内農地のあり方



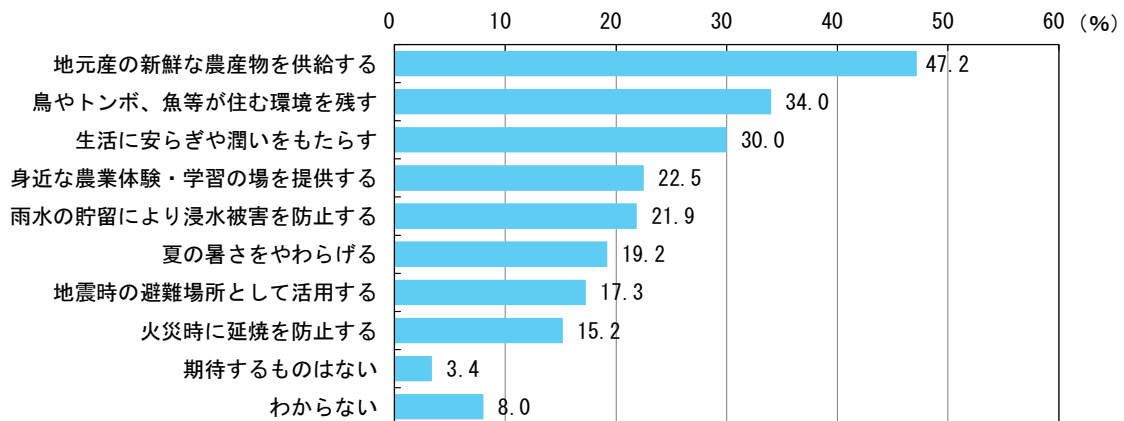
(市街化区域内農地に期待する役割)

問：市街化区域内農地に期待する役割は何ですか。(〇は3つまで)

ア 市全体

- ・「地元産の新鮮な農産物を供給する」が 47.2%と最も高く、次いで「鳥やトンボ、魚等が住む環境を残す」が 34.0%、「生活に安らぎや潤いをもたらす」が 30.0%となっています。一方、「期待するものはない」は 3.4%となっています。

図表 3.54 市街化区域内農地に期待する役割



イ 年齢別

- ・すべての世代で「地元産の新鮮な農産物を提供する」が最も高くなっています。次いで高いのは、40代では「身近な農業体験・学習の場を提供する」、70歳以上では「生活に安らぎや潤いをもたらす」、その他の世代では「鳥やトンボ、魚等が住む環境を残す」となっています。

図表 3.55 年齢別にみた市街化区域内農地に期待する役割

年齢	回答者数	地元産の新鮮な農産物を供給する	雨水の貯留により浸水被害を防止する	火災時に延焼を防止する	地震時の避難場所として活用する	夏の暑さをやわらげる	生活に安らぎや潤いをもたらす	身近な農業体験・学習の場を提供する	鳥やトンボ、魚等が住む環境を残す	期待するものはない
18～29 歳	67 人	31	12	5	7	11	17	22	25	2
	100%	46.3	17.9	7.5	10.4	16.4	25.4	32.8	37.3	3.0
30～39 歳	133 人	71	23	19	9	25	31	44	47	10
	100%	53.4	17.3	14.3	6.8	18.8	23.3	33.1	35.3	7.5
40～49 歳	162 人	78	34	24	13	44	50	56	55	7
	100%	48.1	21.0	14.8	8.0	27.2	30.9	34.6	34.0	4.3
50～59 歳	207 人	115	50	32	25	43	53	48	74	6
	100%	55.6	24.2	15.5	12.1	20.8	25.6	23.2	35.7	2.9
60～69 歳	216 人	99	56	44	54	37	65	34	74	2
	100%	45.8	25.9	20.4	25.0	17.1	30.1	15.7	34.3	0.9
70 歳以上	499 人	215	104	72	113	89	169	85	159	17
	100%	43.1	20.8	14.4	22.6	17.8	33.9	17.0	31.9	3.4
市全体	1,297 人	612	284	197	224	249	389	292	441	44
	100%	47.2	21.9	15.2	17.3	19.2	30.0	22.5	34.0	3.4

ウ 地域別

- すべての地域で「地元産の新鮮な農産物を提供する」が最も高くなっています。次いで高いのは、網干・広畑・灘・香寺地域では「生活に安らぎや潤いをもたらす」、その他の地域では「鳥やトンボ、魚等が住む環境を残す」となっています。

図表 3.56 地域別にみた市街化区域内農地に期待する役割

	回答者数	地元産の新鮮な農産物を供給する	雨水の貯留により浸水被害を防止する	火災時に延焼を防止する	地震時の避難場所として活用する	夏の暑さをやわらげる	生活に安らぎや潤いをもたらす	身近な農業体験・学習の場を提供する	鳥やトンボ、魚等が住む環境を残す	期待するものはない
中部第一	125人	61	21	15	24	24	26	33	50	3
	100%	48.8	16.8	12.0	19.2	19.2	20.8	26.4	40.0	2.4
中部第二	163人	79	37	25	25	44	47	39	53	6
	100%	48.5	22.7	15.3	15.3	27.0	28.8	23.9	32.5	3.7
網干	113人	58	26	18	24	19	40	23	40	2
	100%	51.3	23.0	15.9	21.2	16.8	35.4	20.4	35.4	1.8
広畑	117人	63	34	15	17	26	41	27	34	3
	100%	53.8	29.1	12.8	14.5	22.2	35.0	23.1	29.1	2.6
飾磨	127人	61	31	17	19	19	42	31	48	9
	100%	48.0	24.4	13.4	15.0	15.0	33.1	24.4	37.8	7.1
灘	85人	35	27	12	14	23	29	21	23	1
	100%	41.2	31.8	14.1	16.5	27.1	34.1	24.7	27.1	1.2
東部	96人	42	19	18	11	19	27	21	39	2
	100%	43.8	19.8	18.8	11.5	19.8	28.1	21.9	40.6	2.1
北部	105人	50	26	22	24	19	30	20	35	3
	100%	47.6	24.8	21.0	22.9	18.1	28.6	19.0	33.3	2.9
西部	109人	54	18	13	18	17	34	31	41	3
	100%	49.5	16.5	11.9	16.5	15.6	31.2	28.4	37.6	2.8
香寺	73人	34	11	10	11	16	29	13	20	1
	100%	46.6	15.1	13.7	15.1	21.9	39.7	17.8	27.4	1.4
家島	38人	18	6	7	7	5	8	6	11	1
	100%	47.4	15.8	18.4	18.4	13.2	21.1	15.8	28.9	2.6
夢前	75人	29	13	16	14	8	17	17	23	3
	100%	38.7	17.3	21.3	18.7	10.7	22.7	22.7	30.7	4.0
安富	45人	19	10	7	10	7	12	6	13	5
	100%	42.2	22.2	15.6	22.2	15.6	26.7	13.3	28.9	11.1
市全体	1,297人	612	284	197	224	249	389	292	441	44
	100%	47.2	21.9	15.2	17.3	19.2	30.0	22.5	34.0	3.4

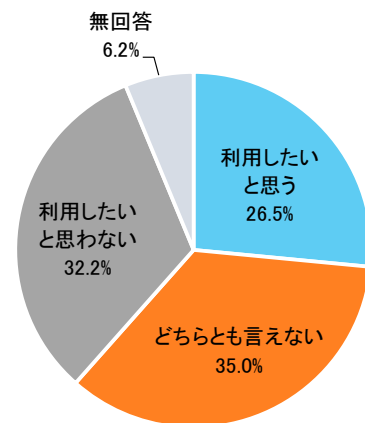
(市街化区域内農地の利用の意向)

問：市街化区域内農地が農業体験の場として提供される場合、利用したいと思いますか。(〇は1つ)

ア 市全体

- ・「どちらとも言えない」が35.0%と最も多く、「利用したいと思います」は26.5%となっています。

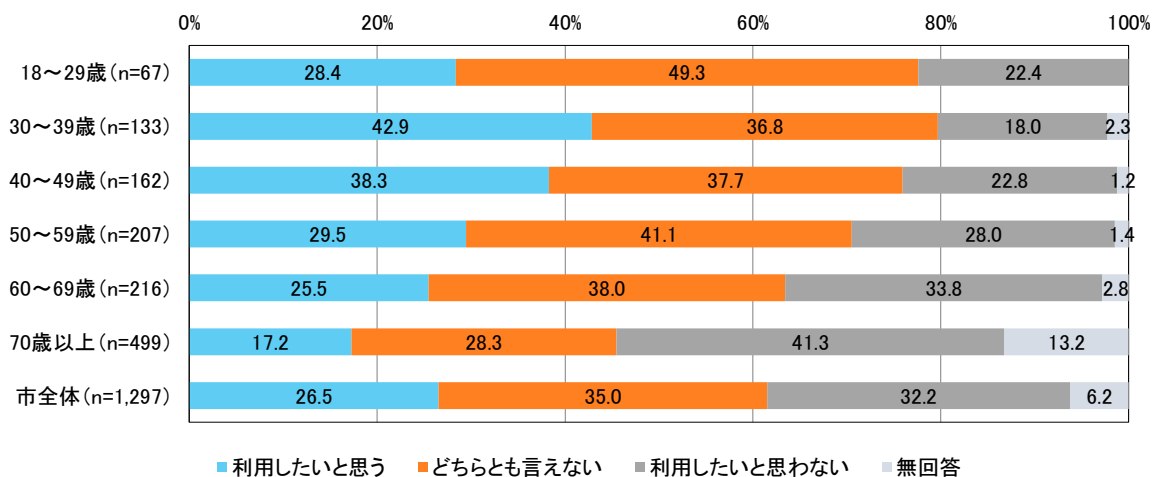
図表 3.57 市街化区域内農地の利用の意向



イ 年齢別

- ・60歳未満の世代では、「利用したいと思います」が「利用したいと思わない」を上回っており、特に30代と40代では「利用したいと思います」が4割前後を占めています。

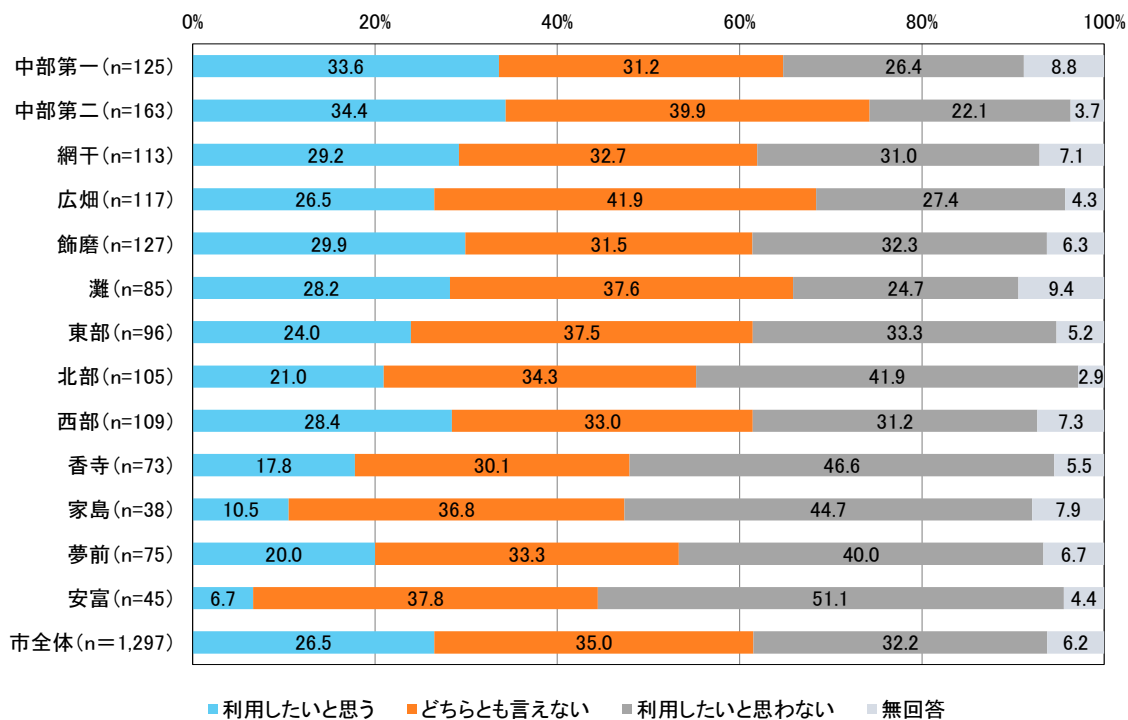
図表 3.58 年齢別にみた市街化区域内農地の利用の意向



ウ 地域別

- ・中部第一・中部第二・灘地域では、「利用したいと思う」が「利用したいと思わない」を上回っており、「利用したいと思う」が3割前後を占めています。
- ・網干・広畑・飾磨地域でも「利用したいと思う」が市全体を上回っています。

図表 3.59 地域別にみた市街化区域内農地の利用の意向



(農業体験への参加の意向)

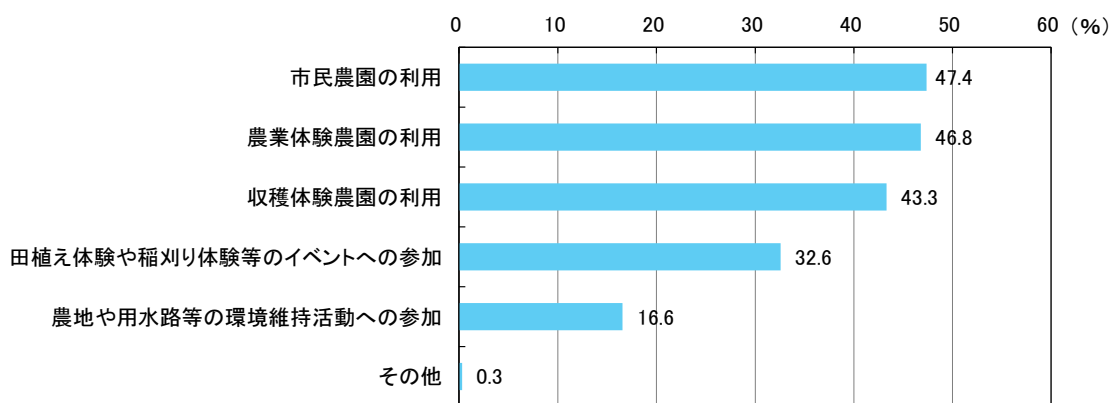
問：どのような形の農業体験をしたいと思ますか。(〇はいくつでも)

※前問で「利用したいと思う」を回答された方が対象

ア 市全体

- 市街化区域内農地を利用したいと考えている方(344人)に対して、どのような形の農業体験をしたいのかをたずねたところ、「市民農園の利用」(農地を借りて、全て自分で栽培・収穫)が47.4%と最も高く、次いで「農業体験農園の利用」(農業者の指導のもと、決められた農産物の栽培・収穫)が46.8%、「収穫体験農園の利用」(農業者が栽培した農産物の収穫体験等を提供)が43.3%となっています。

図表 3.60 農業体験への参加の意向



イ 年齢別

- いずれの世代でも「市民農園の利用」「農業体験農園の利用」「収穫体験農園の利用」が上位を占めていますが、40歳未満では「田植え体験等のイベントへの参加」が最も高くなっています。

図表 3.61 農業体験への参加の意向

	回答者数	市民農園の利用	農業体験農園の利用	収穫体験農園の利用	田植え体験等のイベントへの参加	農地や用水路等の環境維持活動への参加	その他
18～29歳	19人	6	12	12	14	3	0
	100%	31.6	63.2	63.2	73.7	15.8	0.0
30～39歳	57人	16	28	36	36	8	0
	100%	28.1	49.1	63.2	63.2	14.0	0.0
40～49歳	62人	35	28	29	26	10	1
	100%	56.5	45.2	46.8	41.9	16.1	1.6
50～59歳	61人	31	34	19	15	9	0
	100%	50.8	55.7	31.1	24.6	14.8	0.0
60～69歳	55人	19	21	22	10	11	0
	100%	34.5	38.2	40.0	18.2	20.0	0.0
70歳以上	86人	53	35	29	8	15	0
	100%	61.6	40.7	33.7	9.3	17.4	0.0
市全体	344人	231	759	495	85	82	53
	100%	17.8	58.5	38.2	6.6	6.3	4.1

ウ 地域別

- ・いずれの地域でも「市民農園の利用」「農業体験農園の利用」「収穫体験農園の利用」のいずれかが最も高くなっています。

図表 3.62 農業体験への参加の意向

	回答者数	市民農園の利用	農業体験農園の利用	収穫体験農園の利用	田植え体験等のイベントへの参加	農地や水路等の環境維持活動への参加	その他
中部第一	42人	25	19	17	10	9	0
	100%	59.5	45.2	40.5	23.8	21.4	0.0
中部第二	56人	28	29	26	22	9	1
	100%	50.0	51.8	46.4	39.3	16.1	1.8
網干	33人	17	22	20	14	6	0
	100%	51.5	66.7	60.6	42.4	18.2	0.0
広畑	31人	11	13	14	11	4	0
	100%	35.5	41.9	45.2	35.5	12.9	0.0
飾磨	38人	13	14	20	13	7	0
	100%	34.2	36.8	52.6	34.2	18.4	0.0
灘	24人	15	10	6	5	5	0
	100%	62.5	41.7	25.0	20.8	20.8	0.0
東部	23人	13	11	12	7	4	0
	100%	56.5	47.8	52.2	30.4	17.4	0.0
北部	22人	9	10	9	8	2	0
	100%	40.9	45.5	40.9	36.4	9.1	0.0
西部	31人	14	13	12	11	4	0
	100%	45.2	41.9	38.7	35.5	12.9	0.0
香寺	13人	6	5	5	3	1	0
	100%	46.2	38.5	38.5	23.1	7.7	0.0
家島	4人	1	3	1	0	0	0
	100%	25.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
夢前	6人	4	5	3	5	4	0
	100%	26.7	33.3	20.0	33.3	26.7	0.0
安富	3人	1	2	2	0	0	0
	100%	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0
市全体	1,297人	163	161	149	112	57	1
	100%	47.4	46.8	43.3	32.6	16.6	0.3